

令和元年第3回那須塩原市議会定例会

議事日程（第2号）

令和元年6月13日（木曜日）午前10時開議

- 日程第 1 会派代表質問
- 10番 佐藤一則議員
1. やさしいまち、にぎわうまち、元気なまちの創造について
 2. 那須塩原駅周辺のまちづくりについて
- 4 番 田村正宏議員
1. 新時代に要請されるスマート自治体への転換について
 2. スクールロイヤー導入について
- 20番 相馬義一議員
1. 渡辺市長の市政運営方針について
- 18番 眞壁俊郎議員
1. 市長の市政運営について
 2. 新庁舎建設について

出席議員（26名）

1番	益 子 丈 弘	議員	2番	山 形 紀 弘	議員
3番	中 里 康 寛	議員	4番	田 村 正 宏	議員
5番	星 野 健 二	議員	6番	小 島 耕 一	議員
7番	森 本 彰 伸	議員	8番	齊 藤 誠 之	議員
9番	星 宏 子	議員	10番	佐 藤 一 則	議員
11番	相 馬 剛	議員	12番	平 山 武	議員
13番	大 野 恭 男	議員	14番	鈴 木 伸 彦	議員
15番	松 田 寛 人	議員	16番	櫻 田 貴 久	議員
17番	伊 藤 豊 美	議員	18番	眞 壁 俊 郎	議員
19番	高 久 好 一	議員	20番	相 馬 義 一	議員
21番	齋 藤 寿 一	議員	22番	玉 野 宏	議員
23番	金 子 哲 也	議員	24番	吉 成 伸 一	議員
25番	山 本 はるひ	議員	26番	中 村 芳 隆	議員

欠席議員（なし）

説明のために出席した者の職氏名

市 長	渡 辺 美知太郎	副 市 長	片 桐 計 幸
教 育 長	大 宮 司 敏 夫	企 画 部 長	藤 田 一 彦
企画政策課長	松 本 仁 一	総 務 部 長	山 田 隆
総 務 課 長	五 十 嵐 岳 夫	財 政 課 長	田 野 実
生活環境部長	鹿 野 伸 二	環 境 課 長	室 井 勉
保健福祉部長	田 代 正 行	社会福祉課長	板 橋 信 行
子ども未来部長	富 山 芳 男	子 育 て 支 援 課 長	織 田 智 富
産業観光部長	小 出 浩 美	農 務 畜 産 課 長	田 代 宰 士
建 設 部 長	大 木 基	都 市 計 画 課 長	黄 木 伸 一
上下水道部長	磯 真	水 道 課 長	河 合 浩
教 育 部 長	小 泉 聖 一	教 育 総 務 課 長	平 井 克 巳
会 計 管 理 者	高 久 幸 代	選 管 ・ 監 査 ・ 固 定 資 産 評 価 ・ 公 平 委 員 会 事 務 局 長	増 田 健 造
農 業 委 員 会 長	久 留 生 利 美	西 那 須 野 支 所 長	後 藤 修

塩原支所長 八木沢 信 憲

本会議に出席した事務局職員

議会議務局長 石 塚 昌 章

議事課長 小 平 裕 二

議事調査係長 関 根 達 弥

議事調査係 鎌 田 栄 治

議事調査係 室 井 良 文

議事調査係 伊 藤 奨 理

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

- 議長（吉成伸一議員） おはようございます。
散会前に引き続き本日の会議を開きます。
ただいまの出席議員は26名であります。



◎議事日程の報告

- 議長（吉成伸一議員） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。
本日の会派代表質問について、議事進行の記録映像の撮影許可申し出が執行部を通じてありましたので、これを許可したことをご報告いたします。



◎会派代表質問

- 議長（吉成伸一議員） 日程第1、会派代表質問を行います。
質問通告者に対し、順次発言を許します。



◇ 佐 藤 一 則 議 員

- 議長（吉成伸一議員） 初めに、那須塩原クラブ、10番、佐藤一則議員。
○10番（佐藤一則議員） 皆さん、おはようございます。
議席番号10番、那須塩原クラブ、佐藤一則です。
令和元年第3回那須塩原市議会定例会における会派代表質問を行います。
1、やさしいまち、にぎわうまち、元気なまちの創造について。

平成20年に始まった日本の人口減少は、今後若年人口の減少と老年人口の増加を伴いながら加速度的に進行し、2040年代には毎年100万人程度の減少スピードになると推計されています。特に、生産年齢人口の減少による経済規模の縮小、高齢者の増加による社会保障費の増加など、人口減少は社会にも大きな影響を及ぼすことになり、危機的状況であるといえます。

本市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表した推計によると、平成27年をピークに減少に転じるとされていました。しかし、その推計よりも人口減少が早まっています。さらに、その後も減少が続く予測となっています。年齢三区分別の人口を見ると、生産年齢人口（15～64歳）は平成17年をピークに減少傾向に転じています。また、この年に老年人口（65歳以上）と年少人口（0～14歳）の逆転が始まっています。今後老年人口は増加し続け、令和22年には市全体の約35%が65歳以上となり、生産年齢人口約1.52人で1人の老年人口を支えることとなります。

日本全体の問題となっている少子高齢化の流れの中で、地方においては働き手、担い手である若者の減少や地域のにぎわいの喪失などの問題が顕著になっており、自治体が定住促進を図ることは共通の大きな問題となっております。定住促進のためには自治体が置かれている状況を十分に把握し、状況に合った独自の施策を展開すること、そして自治体を持つそれぞれの個性を明確にすることが重要となってきます。

本市は首都東京から150km圏に位置しています。新幹線を利用すれば東京駅から那須塩原駅まで70分、また、高速自動車のインターチェンジが2カ所あり、交通の要衝となっております。アユの宝庫で関東随一の清流として知られる那珂川、美しい塩原溪谷を形成しながら塩原地区を南東に流れ

る箒川、開湯1200年以上の歴史を持ち、尾崎紅葉など文人墨客に愛された塩原温泉郷、下野の薬湯と称される板室温泉、わずか140年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地那須野が原、明治政府の中核であった貴族階級はこの地に私財を投じ、大規模農場の経営に乗り出します。

その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる豊饒の大地に結実し、明治期の華族農場を中心とする那須野が原開拓の歴史をストーリーとしてまとめ、明治貴族が描いた未来、那須野が原開拓浪漫譚のタイトルで平成30年5月、日本遺産に認定されました。塩原、板室、黒磯、西那須野、高林、東那須野、関谷、鍋掛、そのどこからの那須連山の眺望は人々を魅了してやみません。

2019年5月1日に皇太子徳仁親王様が新天皇に即位され、令和への歴史の幕があきました。本市においても4月22日、多くの市民の支持を得て、平成25年第23回参議院議員通常選挙で全国最年少当選し、財務大臣政務官を歴任された渡辺美知太郎新市長が誕生いたしました。その政治手腕にわくわくドキドキしていることから、以下についてお伺いをします。

(1)人を創る。人に優しく、幸せに暮らせる町について。

(2)安心を創る。人が輝き、楽しく健やかな町について。

(3)まちを創る。県北の中心都市として活気あふれる町について。

(4)産業を創る。人が元気に働き、活気がみなぎる町について。

(5)未来を創る。人を育み、未来に羽ばたく町について。

以上、最初の質問とします。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員の質

問に対し、答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） おはようございます。

那須塩原クラブ、佐藤一則議員の会派代表質問にお答えを申し上げます。

佐藤議員はわくわくドキドキする政治手腕というふうにおっしゃいました。私もきょう答弁に立つことを、わくわくドキドキしながらこの日を迎えました。今この那須塩原市、ほかの県北地域に比べると、今の時点では人口減少に歯どめはかかってきておりますが、じわりじわりと人口減少し、そして少子高齢化の波は確実に来ております。このすばらしい那須塩原を、ポテンシャルのあるこの町をもっともっとよくしたい、そうした思いで市長にさせていただきました。

この那須塩原市、非常に魅力の多い町であります。東京から150km、新幹線を使えば1時間10分で都内にアクセスができる。そして1200年の歴史を持つ保養地でもあり、先人たちがこの地に可能性を求めて開拓をして、この町が誕生できました。こうしたすばらしいポテンシャルを引き出して人口減少や少子高齢化、これ乗り越えていくだけではなく、この那須塩原市が栃木県北を元気にして、栃木県をさらに活性化させ、日本全体の活力の一つにつながればいいなど、きょうは市議会の質問に答え、答弁を通じて私の思いを伝えていきたいと思っております。

それではまず、一番のやさしいまち、にぎわうまち、元気なまちの創造について、順次お答えを申し上げます。

(1)の「人を創る」についてお答えします。

市民一人一人がまちづくりを担う人材であります。その人づくりを進めるに当たっては、人の育ちや生活を支える複数の行政分野が連携をして、緊密に連携を図ることが大切であると考えており

ます。子どもたちが地域の担い手となって環境づくりを進め、教育や子育て支援、医療や介護、さまざまなライフステージに合わせた各種施策の充実と連携強化を図っていきたいと思っております。

次に、(2)の「安心を創る」についてお答えします。

市民が安心して暮らせる社会を実現するためには、地域コミュニティと行政の連携が必要不可欠であります。自治会機能のより一層の充実を図り、自主防災組織として消防力を強化して、市の災害対応力を向上させる取り組みを進めてまいります。また、ふるさと那須塩原、この原風景を守っていかなければならない。原風景を守る取り組みを進めていきたいと思っております。

都会でこの地方に移住する私ぐらいの世代の方は、地方に住む際何を望んでいるかという点、教育と安心・安全、この2つが主だそうです。子育てを安心して育てるような環境にしたい。つまり、今、私は1、2、3、4、5とそれぞれ分けて言いましたが、この、例えば教育、安心・安全は結果的にはこれから申し上げる、「まちを創る」、そして結果的には「未来を創る」に反映されてくると思っております。

(3)番の「まちを創る」についてお答えします。

本市は11万6,000人という栃木県北一の人口を誇り、新幹線駅でもある那須塩原駅を中心として栃木県北の北の都、北都の玄関口としてふさわしい環境を整備する必要があると考えております。那須塩原駅周辺を県北地域の拠点地域として、駅周辺のまちづくりのビジョンを明らかに、再整備の推進や交通結節点のふさわしい境界に努めてまいります。

次に(4)の「産業を創る」についてお答えします。

この那須塩原市が発展するためには農業、観光業、商業、工業といった各産業分野を横断する施

策を展開して、さらなる活力を創造する必要があります。本州一の生産を誇る生乳を初め、農産物や観光資源のブランド力の強化、これをしっかりと図り、那須高林産業団地の整備や企業誘致に取り組み、新たな雇用に取り組んでまいります。

最後に(5)の未来についてお答えします。

本市ではこれまでも少子高齢化、人口減少時代に対応するためにさまざまな地方創生、定住促進に係る取り組みを進めてまいりました。これらの取り組みの継続性を尊重した上で、本市の魅力を市内外に積極的に発信をして、さらなる移住定住促進を図っていきたいと思っております。

1、2、3、4、5とそれぞれ分けて答えましたが、先ほど申し上げたとおり、全ては連動している。横串を通し、常に1、2、3、4、5は、将来的には未来をつなげるにつながってくる、そのような意識でまちづくりに取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） それでは、初めに(1)の「人を創る～人に優しく、幸せに暮らせるまち」について、再質問をいたします。

先ほど市長から、子どもたちが地域を担うことができる環境づくりやライフステージに合わせた各種施策の充実と連携強化を図るといった答弁がありました。それらにおいてどのような取り組みを想定しているのか、お伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 市長。

○市長（渡辺美知太郎） 子どもたちが地域を担うことができる環境づくりであります。私自身も今子育て世代であります。子育てしやすいまちづくりを進めることが、まず一つ重要な要素になるのかなと思っております。子育てに関する関係団体、民間事業者との連携を強化して、子育て環境の強化や保育の充実などに取り組んでまいります。

また、児童生徒を地域ぐるみで育てるため、地域、学校、行政の連携強化を図ってまいります。

ライフステージに合わせた各種施策の充実と連携強化では、子どもや働き世代、高齢者などさまざまな世代のニーズに合った事業に取り組むとともに、人々が相互に認め合い、支え合える共生社会を目指してまいります。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） それでは、具体的にどのような事業に取り組むかをお伺いしたいところでございますが、現時点では難しいと思いますので、施策の方向性や事業のイメージで結構ですので、市長のお考えをお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 現時点で私が考えていること、あるいは既に指示を出していることは、具体的には民間企業との連携による子育て支援事業の充実や子どもたちの遊び場づくりの検討、第2期那須塩原市発達支援システム推進計画に基づき、既に本市が先進的に取り組んでいる発達支援システムによる支援体制の充実を図っていきたく思っております。

また、働き世代に関しては健診の受診増や、高齢者については見守りサービスの充実を図ってまいりたいと思っております。この、例えば子育て世代であれば、もちろんハードを整えることも必要であります。ソフト面での支援策、今既存のものを組み合わせて、より住みやすい、そして子育てしやすい、働きやすい、そうしたまちづくりを考えていきたく思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） それでは、次に(2)の「安心を創る～人が輝き、楽しく健やかなまち」について再質問をいたします。

市民が安心して暮らせる社会を実現するためには、地域コミュニティと行政の連携を深める取り組みが必要との答弁がありました。どのような取り組みを考えているのか、お伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 市民の皆様の生活の一番身近な場所となる、それが自治会やコミュニティであると考えております。そして、その地域を取り巻く美しい景色、景観、環境であると考えております。これまで自治会活性化支援事業やコミュニティ設立支援事業、自主防災組織育成支援事業や景観条例に基づく取り組み、こちらも継続をして、市民の安心・安全につながる取り組みを推進をしていきたく思っております。

今、自助・公助・共助という言葉がございます。もちろん私も行政、これは公助をしっかりとやっていかなければならないと思っておりますし、市民の方々お一人お一人、自助の部分もあるかと思っています。そして、これから非常に重要な要素となってくるのが共助の部分であります。お互いが助け合い、コミュニティで助け合い、自治会で助け合い、皆様が公助や自助のどうしても足りない部分を共助で助け合っていく、そんな共生社会の実現を目指して活動していきたく思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 安心して暮らせる地域づくりには市民と行政の協働と粘り強い取り組みが必要であります。継続しての事業が多いと思いますが、新規や格上して実施したい取り組みがあれば、イメージ的なもので結構ですので、市長のお考えをお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 自治会機能の充実、そうしたコミュニティの取り組み、そういったことは、まず私が市民の皆様、自治会の皆様に直接お話を聞きに行きたいと考えておりまして、タウンミーティングのような機会を今後設けて、多くの方々のご意見を聞いて、その地域の歴史であったり、課題であったり、そして皆様のお考え、希望をしっかりと聞いていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 了解しました。

(3)の「まちを創る」については、この後2つの項目で質問させていただきますので、(3)の項目については再質問はございません。

それでは、次に(4)の「産業を創る～人が元気に働き、活気がみなぎるまち」について、再質問をいたします。

本市が発展していくために、各産業分野を横断する施策を展開し、さらなる活力を創造する必要があるとの答弁でありましたが、どのような認識によるものか、お伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 那須塩原市というのは、農業、観光業、商業、工業といった比較的バランスがとれている地域だと思っております。では、何も問題はないのか。決してそんなことはないと思っております。まずはこの市の、那須塩原市の魅力をより多くの方に知っていただかなければなりませんし、ブランド力の向上をしなければなりません。同じ農産品でも、例えば新潟のものと栃木県のものでは、残念ながら今では価格の差があります。それは味による差ではなくて、ブランド力の差によるものと思っております。そうしたブランド力の向上であったり、またアクセスのよさ、先ほども申し上げました都内、物すごいアクセス

がよい。移住促進、移住や定住促進、そういった取り組みにも邁進をしていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 市の産業振興につきましては、これでの視点においてもさまざまな事業や取り組みが行われ、一定の成果を上げてきたものと捉えておりますが、新しい市長の目から見て、もっとこのような取り組みができるのではと気づく部分もあろうかと思えます。現時点での想定で結構ですので、具体的にどのような取り組みが考えられるのか、お伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） これからの那須塩原市、どのようにしていくかということではありますが、このアクセスのよさ、那須塩原駅前であれば新幹線、目の前です。そして今、テクノロジーの向上によりまして、会社に行かなくても働くことができるテレワークであったり、そして会社に行くとしても本社に行く必要はない。サテライトオフィスのようなものが、今少しずつ全国各地で広がってきております。

そうしたテクノロジーの進歩とこの町の利便性を合わせたテレワークやサテライトオフィスの誘致、これをまずしっかりやっていきたいと思っておりますし、また、先ほども申し上げましたが、農産品であったり、乳製品のような、こうした、那須塩原、非常にポテンシャルの高いものではあります。もっとも付加価値をつけていく必要があるのではないかと考えております。

そして、肝心なことは、我々がいいと思っていることと都会の方がいいと思っているもの、必ずしも一致しないわけでありまして、特産品をつくるにせよ市内の皆様で堪能して、味わっていただ

くものと、都会や、あるいは海外の方に、いわば刺さるようなものをつくっていかなければならない。乳製品であれば、例えば、ちょっと牛乳は苦手だなという方もいらっしゃるかもしれません。そうした方々にどのように本市の牛乳を楽しんでいただくか。例えばチーズフォンデュにして味わっていただく。そうした組みかえといたしますか、発想の転換も必要であるかと思っております。

またこの那須塩原市、恐らく観光業がこれからもっともっと発展をする余地があるかと思っております。食を通じた、その地域の文化や歴史を学ぶガストロノミーツーリズム、これは美食の旅ですが、ただ御飯を食べるだけではなく、この地域の歴史、幸いにして昨年、日本遺産にこの那須野が原の開拓が選ばれました。そうしたガストロノミーツーリズムや、あるいはヘルスツーリズム、一言で言えば健康増進、海外の方々が、今、日本人は何でこんなに寿命が長いのか、非常に疑問に思われているそうです。この那須塩原市に來れば温泉も入ることができる、治療もできる。そうした海外の方にもこの町のすばらしさをわかっていただく。そうした今までの魅力を組み合わせ内外に発信をしていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） それでは、最後に(5)の「未来を創る～人を育み、未来に羽ばたくまち」について再質問をいたします。

市としてはこれまでも地方創生や定住促進の取り組みを進めてきましたが、さらに積極的な情報発信、さらなる移住定住の促進を図っていくという答弁がありました。これまでの市の取り組みについての市長の認識をお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 私が那須塩原市長になっ

て思ったことは、那須塩原市も広報活動である、例えば定住移住や観光、まちづくり、そういった事業の広報であったり、あるいはSNS、非常に熱心に取り組んでいるなどというのが私の最初の感想でした。ただ、例えばSNSを真面目に毎日更新をする。それなりに記事を考えていく。それだけではなくて、では最終的なターゲットは何なのかと。

ツイッターにせよフェイスブックにせよ、例えば市民の方向けに対して発信をするものであるのか、それとも市外の方に、那須塩原市はこんな魅力的なことをやっているんだ、そういったことを広げる、つまりゴールはどこなのか。それをもう一度しっかり精査をして、そのゴールに向かってどのように到達するかといった戦略はこれから考えていきたいと思っております。

さらなる積極的かつ効果的な情報発信、これをしっかり戦略を持って、まずはゴールを定め、そしてそのゴールに向かうためにはどのようなプロセスを踏めばいいのか、それを検証していきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 発信した情報が十分伝わっているか検証するとのことですが、人口減少対策や移住定住の促進として、市長としてどのような人たちをターゲットにし、どのような取り組みを情報発信していくのか、これも現時点でのイメージで結構ですのでお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） ターゲットでございますが、恐らくいろいろな可能性があると思っております。一つは先ほども申し上げました、主にIT系の企業であればサテライトオフィスやテレワーク、本社にいなくても自宅のパソコンで仕事があ

きる。あるいは自宅で仕事をするのは嫌だよというのであればサテライトオフィスのような、手軽なオフィスに行って仕事をするができる。そうしたテクノロジーの進歩に合わせた施策というのはあると思っております。

そしてもう一つは、先月、片山さつき内閣府特命担当大臣がいらっしゃいましたが、これからは二拠点居住、つまり、平日は都会で働いて、土日は地方に来て温泉であったりとか、農業を楽しんでいただく、そういった二拠点居住が今後注目されるのではないかとといったアドバイスをいただきまして、実際、私の同世代の、例えば弁護士であったりとか、そういう士業の方々は会社に行かなくても仕事ができるので、平日は都内の家に住んで、土日は、例えば古民家を購入をして、休日は地方で楽しんでいただく。そういった生活を今、少しずつする方がふえてきているなど思っております。

そうした二拠点居住などの可能性も検証して、自然環境のすばらしさ、やはり都会にいますと、我々がふだん感じているような自然環境というのはなかなか味わえないので、そうした環境のよさであったり、教育施策の充実、那須塩原に来ればこれだけ充実した教育を受けることができるんだよ。全校配置、ALTがしているんだよ。英語も身近に、海外も身近に感じるができるんだよ。そうした、これまで取り組んできた魅力をしっかりと各世代ごとにちゃんと育つような、そうしたターゲティングをしていきたいと考えております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 平成から令和へと歴史が動きました。「人を創る」、「安心を創る」、「まちを創る」、「産業を創る」、「未来を創る」、5つの創るで、やさしいまち、にぎわうまち、元気なまちのいち早い創造を期待いたします

て、この項の質問を終わります。

続きまして、2、那須塩原駅周辺のまちづくりについて。

市長は5月臨時会の挨拶の中で、那須塩原駅周辺におけるまちづくりのビジョンを明らかにし、民間の活性化につながる駅周辺の再整備とともに、市役所新庁舎の建設に努めますと述べられました。新庁舎建設に関する主な経過は、平成15年に黒磯市、西那須野町、塩原町、合併協議会において、将来の新庁舎の位置は那須塩原駅周辺とすることを確認されました。平成19年に那須塩原市新庁舎整備基金条例を制定し、新庁舎建設に関する基金の設立を開始しました。平成24年、東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所の事故により、喫緊の課題である放射能対策を最優先に取り組みこととし、新庁舎建設の検討を一時延期しました。

平成28年に東京オリンピック・パラリンピックなどの影響により、建築費等の高騰が伝えられていること、また、合併特例債の発行可能期間も平成36年度まで延長されたことを踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック以降に建設時期を延期することが適当であると判断されました。平成29年に合併特例債の発行可能期間を見据えると、東京オリンピック・パラリンピック以降、速やかに建設工事に着手する必要があることから、庁内検討組織を立ち上げ、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討が再開されました。

平成30年4月に、企画部企画政策課内に庁舎準備室を設置するとともに、那須塩原市庁舎建設市民検討懇談会を立ち上げ、基本計画の策定に向けた本格的な検討を再開しました。平成31年にパブリックコメントや市民アンケートの結果や市議会からの提案事項を踏まえ、那須塩原市新庁舎建設基本計画が策定されましたので、以下についてお

伺いをいたします。

(1)那須塩原駅周辺のまちづくりビジョンをどのように明らかにしていくのか。

(2)民間の活性化につながる駅周辺の再整備の考え方について。

(3)新庁舎の建設はどのように進めていくのか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 那須塩原駅というのはただの駅前ではないと私は思っております。栃木県北の北の都、北都の玄関口だと思っております。恐らく那須塩原に来たことがない方、一般的に恐らく那須高原だとか那須とか、そういった物すごいざっくりとしたイメージを持ってこの地に来られる方、そういう方々は恐らく軽井沢とか、そういった軽井沢駅のようなものを想像してきたりとか、物すごい期待を抱いて、この那須塩原駅にやってくると思うんです。そうした方々へのこのわくわくどきどき、その期待を本来であれば上回るだけの印象を与えなくてはならないと私は思っております。

これまでも市民の方々、そして行政、一丸となって、「この那須塩原駅前、何とかしなければね。もっと魅力のある地域にしなければいけないね」そして語り合うだけではなくて、さまざまな取り組みをしてきました。いろいろなことをやってきました。我々がいいと思っているところと、今度は私も那須塩原市に多くの方に来ていただきたい。たくさんの方に来ていただきたい。玄関口です。例えば家であれば、どんなにリビングがすばらしい間取りであったりとか、どんなに料理がおいしくても、玄関が寂しいと、「ああ、やはり那須塩原、寂しいね」そういった意識を持たれてしまうと思っております。

外部の方々を呼んで、外から見た那須塩原駅前

はどのようにしなければならないのか。そして、那須塩原駅前だけの話ではありません。玄関口です。家のビジョン、町のビジョン、地域のビジョンがあってこそその玄関口だと思っております。北都の玄関口としてふさわしいまちづくりを進めなければいけないと考えております。

こうした取り組みを進めるに当たっては、駅周辺の魅力を高めて、民間活力を導入するためのビジョンが必要であります。外部の専門家の方、有識者の方、そういった方々で構成する検討会を設置をして、客観的なアドバイスをいただきたいと思っております。そうしたさまざまな視点からご意見をいただき、将来を見据えたまちづくりのビジョンに取り組んでいきたいと思っております。

(2)の民間の活性化につながる駅周辺の再整備の考え方についてお答えします。

駅周辺の再整備の考え方は、(1)でお答えしました、検討会であったり、関係者の皆さんのご意見、国や県、関係機関との協議結果を整理して取りまとめる予定であります。大きな方向性としては、県北の北都、北の都にふさわしく、また民間事業者の参入意欲、那須塩原に来たいな、那須塩原にこういう企業、産業を持っていきたいな、那須塩原で働きたいな、そういった参入意欲をかき立てるような魅力的なまちづくりを進めていきたいと考えています。

そして最後に、(3)の新庁舎の建設、どのように進めていくか、お答えを申し上げます。

新庁舎の建設につきましては、本年3月に議題をいただいております、新庁舎建設基本計画がベースになるものと認識をしておりますが、まずは先ほど申し上げました那須塩原駅周辺のまちづくりビジョン、これを明らかにすることが最優先の課題であると思っております。したがって、駅周辺のまちづくりビジョンの検討を進める中で、

ビジョンとの整合性の確認や調整を図りながら進めていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） それでは、全て関連がございますので、一括して再質問したいと思います。

この那須塩原駅周辺のまちづくりというテーマは、今後の那須塩原市を考えていく上で非常に重要で大きなテーマであります。そういったこともございまして、市長のお考えを伺わせていただきたく質問したわけでございますが、那須塩原駅周辺のまちづくりビジョンを取りまとめるに当たって、検討会を設置するという答弁がありました。この検討会における検討の期間というものほどの期間を設定しているのか、お伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 今スケジュールについてのご質問がありました。このスケジュールやこのまちづくりの準備委員会でございますが、今、検討を行っている段階であります。したがって、整理ができ次第お示しをしてみたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） スケジュールについては、検討中であるということは理解をしたところでございます。

検討会のメンバーについてですが、各外部の専門家や有識者で構成するというお話でしたが、どのような方を想定しているのかお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 構成員たるメンバーにつ

いてのご質問がありました。現在、検討を行っている最中ではありますが、この那須塩原市をどのようにすれば市内外で魅力的な町に見えるか。そして、その玄関口にふさわしい駅前周辺、そうしたアドバイスをいただけるか、今、精査を行っている段階でございます。まちづくりの専門家であったり、有識者であったり、実務者であったり、そして、これは当然関係機関、国や県の意見も聞かなければならないと考えております。そうした方々に参画をいただけるように邁進をしてみたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） メンバーについても検討中ということですので、その辺は理解したところであります。

それでは次に、昨年度、庁内に那須塩原駅周辺のまちづくりについて勉強会を立ち上げたと聞いておりますが、今回検討されている検討会との関係はどのようになるのかお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 今回私が申し上げました、この検討会、駅周辺のまちづくりを進めるに当たって、主に町の魅力や民間事業者の参入意欲を高める観点、そうした方向性や手法についてのご意見、ご提言をいただきたいと思っております。今後は検討会や関係機関、団体等からのご意見をいただいて、市として取りまとめていくこととなりますので、庁内における協議、こちらも継続的に行っていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） ぜひ、継続していただきたいと思っております。

それでは新庁舎の建設についてですが、新庁舎建設基本計画で示しているスケジュールからずれ

込むことはないかお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） このスケジュール、現在調整をしておりますが、まちづくりビジョンの、この町をどうするか、この一定の方向性をまとめ、ビジョンと新庁舎建設基本計画との整合性の確認や調整が必要だと思っております。まちづくりのビジョンを明らかにするということと過去の議論、これはもちろん尊重していかなければならないと思っておりますが、確認や調整に要する時間というのは必要になってくるのではないかと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 新庁舎のスケジュールがずれ込むということになりますと、建設予定地の用地取得への影響が心配されるところでございますが、影響はないのか、お伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 地権者の方々に关しましてはこれまでも丁寧に説明をしてきているところでありまして、引き続き丁寧な説明をしていきたいと思っております。スケジュールにつきましても、必ずしも変動するとかしないとかというのではなく、あくまでもまちづくりのビジョンを決める、それがまず先決かなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 今後も地権者には丁寧な説明をして、円滑に用地が取得できるように努めていただきたいと思います。

那須塩原駅周辺のまちづくりについては、まちづくりビジョンを明らかにして進めていくが、その手法やスケジュールについては現在検討中であり、今後示していただけないということはおおむね

理解をしたところであります。

最後に、那須塩原駅周辺のまちづくりに対して、渡辺市長はどのような思いをお持ちなのか、お聞かせいただければと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 先ほどもさまざまな私の考えを述べさせていただきました。那須塩原駅前というのは、この栃木県北の玄関口であります。家に例えれば玄関口でありますので、奥にどんなにすばらしいものがあったとしても、家の料理がおいしくても、玄関口が寂しければお客様は帰ってしまうかもしれません。しかし一方で、玄関口さえよければいいわけでは当然ありません。玄関口が立派でも、「何だ、意外と狭いのではないか。御飯もおいしくないではないか」、そうしたことになってしまっただけでは本末転倒であります。まずはこの那須塩原市、そして栃木県北、この魅力をどうすれば生かせるか。

そして多くの方々に、恐らく那須というブランド、栃木県は知らなくても日光は、那須は知っているよ、そういう方も多いと思います。彼らは日光であったり軽井沢であったり、那須であったり、同じように恐らく期待をされて那須塩原駅に来ていただけたと思います。そうした方々の期待に応えなければならないし、そして住んでいる我々、市民の皆さんも、「こんなに立派な駅前ができた。どんどん来てくれ。どんだんうち的那須塩原に来てくれ」、「那須塩原ってどういうところですか」「いや、寂しくて何もなかったよ」ではなくて、「いや、うちの駅前はずばらしいんだ。そして駅前だけではなくて、温泉もあるし、御飯もおいしいし、ぜひとも、暇さえあれば那須塩原市に来てくれ」そういった、市民の方々が胸を張って誇れるような駅前と、そしてこの那須塩原のまち

づくりをしていきたいと考えております。

○議長（吉成伸一議員） 10番、佐藤一則議員。

○10番（佐藤一則議員） 私は、今もわくわくどきどきしているところでもあります。誰もがみんな毎日わくわくどきどきして、住んでみたい町、那須塩原、住んでよかった那須塩原、渡辺市長の手腕に期待するとともに、楽しみにしております。

以上で私の質問を終了いたします。

○議長（吉成伸一議員） 以上で那須塩原クラブの代表質問は終了いたしました。

—————◇—————

◇ 田 村 正 宏 議 員

○議長（吉成伸一議員） 次に、公明クラブ、4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） 皆様、おはようございます。議席番号4番、公明クラブ、田村正宏です。

まず初めに、今は亡き君島前市長に対しまして、改めて哀悼の意を表しますとともに、その功績に対して感謝を申し上げたいと思います。

それでは、通告に従いまして、会派代表質問をさせていただきます。

1、新時代に要請されるスマート自治体への転換について。

折しも新時代、令和の到来に合わせ渡辺市政がスタートしました。渡辺市長の掲げる「5つの創る」実現には大いに期待をしております。しかし、この令和の時代は高齢化がピークを迎える2040年ごろにかけて、さまざまな内政上の課題が次々と顕在化する時代でもあります。先ごろの、今後の行政のあり方を検討してきた総務省傘下の自治体戦略2040構想研究会の提言には、人口減少により2040年には、今の半数の公務員で行政を支える必要があるとのショッキングな報告もなされ

ています。

しかし、地域の状況は千差万別であり、地域の行政機能やサービスのあり方は、あくまで自治体自身が地域特性や住民ニーズを踏まえた上で考えていくものでありますが、予想をはるかに超えるイノベーションの進歩に伴う時代の変化を目の当たりにすると、改めて未来の状況を予測して、そこから今何が必要かを考えるバックキャストिंगの発想で検証を実施する必要があるのではないのでしょうか。特に本市としてのビックイベントである新庁舎建設については、基本計画が策定され、建設に向けた具体的な方向性が示されたところではありますが、さらなる民意の反映と英知の結集により、より持続可能性の高いものを目指す必要があると思います。

いずれにしましても、人口減、高齢化などの静かなる有事の進行に伴う日本の社会構造の変化を見据えた市政運営のために、以下の事柄について伺います。

(1)スマート自治体構築のために必須とされる破壊的技術であるAI、RPA——ロボティック・プロセス・オートメーションなどの導入についての考えは。

(2)複数自治体同士の協議により、様式、業務手順を統一、標準化する自治体クラウドの導入についての考えは。

(3)時代の要請により、本市も今後スマート自治体への転換を余儀なくされると思うが、未来の状況を予測したとき、新庁舎建設基本計画を見直す考えは。

(4)スマート自治体への転換が要請される中、3月議会で可決された那須塩原市電子市役所計画を見直す考えは。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 公明クラブ、田村正宏議員の会派代表質問にお答えを申し上げます。

私が市長になる前、つまり国会議員をしていたときにこんな議論がありました。経営者や政治家や行政、テクノロジーの進歩に着いていっている人間がどのぐらいいるのか。今、本当に目まぐるしいテクノロジーの進歩が行われています。金融の世界では超高速取引といって、まばたきをするだけで1万回以上も取引が終わっている。13年前、13年前というはるか、テクノロジーの世界では昔と言われた時代でさえ、ある金融の取引担当者が桁を1桁間違えただけで何百億円という損失を計上しました。

また、医療の世界ではデザイナーベイビーといって、遺伝子を操作して、そう遠くない未来に、恐らく希望どおりの子どもたちをつくることができるのではないか。それから、臓器工場といって、人間の臓器をクローン人間、たくさんつくらせる。そういった技術も可能になってきます。医学の世界ではどういことが行われているか。人間と神の領域はどこまで行えばいいのか。どこまでだったら人間は行っていいのか。どこから先は、我々人間は手を加えてはいけないのか。今、そういった倫理と、そうした人としての限界というのを議論しているんだそうであります。

今、この自治体のAIであったりロボティクスといった取り組み、今、全国少しずつ行われてきております。自治体だけではなくて、企業、そしてさまざまな組織であります。私も非常に今、危機感があります。そもそも今、理系の人材というのが非常に不足をしております。ましてやAIやRPAといった最先端の技術をわかっている、そうした方は本当にまだ一握りだと思っています。テクノロジーの変化に、つまりこれからの未来の

水先案内人になるべき人、恐らく争奪戦になってくるのではないかなと思っています。企業の場合は、これはあす、あさつての利益に関することでもありますので、恐らく行政より期間を持って人材を集めてくると思っております。

行政のほうでも今、全国的に取り組みをしています。総務省が事例を取りまとめておりますが、例えば、窓口にいच्छる外国人の方への翻訳機能といった窓口業務の効率化、そういったものから、いや、もう道路、そういうのもAIでやったらどうか。道路の管理なんかも全てAIで管理したらどうか。そして職員の業務、そういったことも代行させてもいいのではないか、そういった取り組みが各地で行われております。私もそうした意識を持っているということをお示した上で答弁に当たりたいと思っております。

初めに(1)のスマート自治体構築のためのAI、RPAなどの導入の考えについて、お答えを申し上げます。

AIやRPAなどについては、本格的な人口減少社会の到来や労働力の供給制約に直面していく中で、今後の行政運営に必要なかつ有効な技術と認識をしております。先月、先進自治体の視察を実施するなど、検討を始めているところでありますが、導入に当たっては、その範囲や市民サービスの影響、費用対効果など幅広い検討が必要でありますので、引き続き先進事例や国・県の動向を踏まえながら、調査、研究を進めていきたいと考えております。

次に、(2)の自治体クラウド導入についてお答えします。

自治体クラウド、今、複数自治体間で情報システムの共有化、平準化することでスケールメリットによるシステムの開発や運用経費の低廉化などにつながるものと考えています。現在、本市を含

め県内のほとんどが同一業者のクラウドを使用していることから、今の段階で直ちに自治体クラウドに移行してもメリットが出る状況ではないと考えておまして、県内の自治体で組織する栃木県市町村情報化推進協議会や自治体クラウド部会での情報交換や協議を踏まえて検討してまいりたいと考えています。

次に、(3)の新庁舎建設基本計画を見直す考えについてお答えします。

スマート自治体への対応について、本年3月に議決いただいた基本計画において、将来の変化にも柔軟に対応できる庁舎を目指すこととしておりますので、基本的に設計を進めていく中で対応可能であると考えています。

最後に、(4)的那須塩原市電子市役所計画を見直す考えについてお答えします。

電子市役所計画は本年3月の議会において議決をいただき、現在新たなICTの情報収集の取り組みとして、AI、RPAの活用についても調査、研究を進めているところであります。この計画は日々変化している、進歩しているICT分野の計画であることを考慮し、計画期間は3年間としていることから、近々に見直しは考えておりませんが、想定を超える変化が生じた場合には、必要に応じて直ちに見直しをしたいと思います。

このテクノロジーを行政——行政でなくても経営でもいいんですけども、テクノロジーの進歩を活用するといったときにどこまで生かすのか。単に窓口業務だけやらせておけばいいのか。それとも、いやいや、もう、田村議員もおっしゃったとおり、公務員が激減するといったところで、公務員の業務をもう代行させることを考えてやるのか、そういった計画が必要だと思っております。窓口業務、恐らく、多分そんなに気軽にできることから、いや、これは熟慮を要するようなものも

たくさんあると思っています。怖いのは単にやりやすいものを作って、ああ、これでうちは大丈夫だというのではなく、いろいろな計画を考えて、現実を踏まえた上で計画をしていきたいと思っておりますので、引き続き議員からのご指摘も賜ればなと思っています。

○議長（吉成伸一議員） 質問の途中ですが、ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前10時56分

再開 午前11時06分

○議長（吉成伸一議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） それでは再質問をさせていただきます。

(1)から(4)までは関連をしておりますので、一括して質問したいと思います。

折しも5月24日、ついこの間ですけれども、行政の手続を電子申請に統一するための、いわゆるデジタルファースト法というのが参議院で成立、可決をいたしました。この法律は、正式な名称は80文字を超える非常に長ったらしい法律でして、これによってマイナンバー法だとか公的個人認証法、住民基本台帳法などが一括で改正をされたんです。これによって、まず取っかかりとして、いわゆる引越しの手続、これがもう今年度からネットで申請ができるようになるのが決まったんです。

私も今まで何回も引越しをしていますけれども、引越しの手続というのは非常に煩雑でどうか、面倒くさくて、休みを使わなければいけないとか、非常に不愉快な思いもしたこともあった

りもしますけれども、それがネットで一括で完結してしまうんです。住所なんかをパソコンで入力しただけで、水道だ、電気だ、ガスだ、そういったところの手続が済むというのがもう、すぐ、今年度から実施しますということに決まりました。これはいわゆるデジタル・ガバメントによる効果のほんの一つだけだと思うんです。非常にこれは利便性が高い。今後こういうことがどんどん進んでくるんだろうなというふうに思います。

これもやはりついおとといですけれども、いわゆることしの骨太の方針の原案が示されました。今回はいわゆるデジタル・ガバメントの推進が大きな目玉だというふうに言われています。非常に大きなボリュームでデジタル・ガバメントによる行政の効率化というのが示されて、その中に、具体的に地方自治体のデジタル化の推進というものも盛り込まれています。まさにスマート自治体への転換というのは、あと自治体行政のデジタル化、これはもう国策です。国策と言っても過言ではない。そういう中で、本市としてどのようにそういった現状認識をしているのかについて、お答えいただければと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 本市としての認識ということですが、1回目の答弁で市長からもありましたとおり、本市としても方向性としてしっかりと確認をして、それにあわせながら対応をしていこうと。デジタルファースト法、それから戸籍法の改正等、いろいろな法律が絡んでまいります、それぞれこの後出てくるであろう国からの細かな情報、そういったものを注視しまして、適切な時期にしっかりと対応していこうというふうに考えております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） それで、このいわゆるスマート自治体、これを推進するために、まず絶対必要なのはマイナンバーカードの普及なんだと思います。全ての市民が公平に行政サービスを受けるためにはマイナンバーカード、これをインフラとして確実なものにするのが大前提だと思うんです。骨太の方針の中にも、今回そういったことがうたわれていまして、マイナンバーカードを活用した新たな国民生活、経済政策インフラの構築というふうにうたわれています。

その前に、これはデジタル・ガバメント閣僚会議という、菅官房長官が議長の会議が定期的開催をされていますが、この6月4日の会議で、マイナンバーカードの普及とマイナンバーの利活用の促進に関する方針というもの、非常に長い、20ページぐらいのものですけれども、指針が示されています。ここに何て書いてあるかというと、安心・安全で利便性の高いデジタル社会をできる限り早期に実現する観点から、2022年度中にほとんどの住民がマイナンバーカードを保有していることを想定し、マイナンバーカードの普及を強力に推進するというふうに書き込まれたんです。

昨年の6月に森本議員、私も昨年の12月にそのマイナンバーカードの普及に関しては質問をさせていただいたところですが、その際、部長からは普及促進に向けた取り組みを検討しているよという答弁もいただいております。その後の、昨年10月末の時点で本市の交付枚数1万3,298枚、11.4%ということでしたが、その後の推移、直近の数字等がわかればお聞きをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

保健福祉部長。

○保健福祉部長（田代正行） それでは、マイナンバーカードの直近の交付状況ということで説明をさせていただきます。

5月1日現在で1万4,038件ということで、これは人口に対して12%ということでございます。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） やはり、それほど伸びていないというか、全国的にもそんな数字なのかもしれないけれども、先ほど申し上げた普及促進に向けた取り組み、これを検討しているという話が12月にあったんですが、その件に関してはいかがでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 普及促進に向けましての取り組み、現在、庁内で検討しているところですが、まず一つに、まず職員からしっかり取ったいこうよと、職員の一括申請がいかがかと。さらに、市役所以外の場所を利用して、もう少し市民の方にも利便性の高いところでこういった受付ができないかというところを今、検討しております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

私はちなみにもう2年前ですか、スマホで、電子申請でマイナンバーカードは取得できるので、家族で申請をして交付を受けました。これはわからないかもしれないけれども、本市の職員の交付の状況なんていうのが、具体的にわかるようであればお答えいただければと思います。

○議長（吉成伸一議員） 田村正宏議員に申し上げます。質問の内容から少しづれつつございますので、改めての質問をお願いいたします。

田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

それで、先ほど申し上げた、この6月4日のデジタル・ガバメント閣僚会議のマイナンバーの利活用の促進に関する方針の中に、こんなことも書かれているんです。国家公務員や地方公務員等に

よるマイナンバーカードの率先した取得を促すとともに、各保険者による取得促進策の速やかな具体化を推進するという文言も盛り込まれております。そういう前提のもとに本市の職員の状況、もしくは、では部長個人でも結構ですけれども。

○議長（吉成伸一議員） 田村正宏議員に申し上げます。

答弁に関しましては多くが市長が答弁という、その代理として部長が答弁するということですので、指名は避けていただきたいと思います。

再度、田村正宏議員、質問を少し変えてお願いをいたします。

それでは、市長からの答弁があるようですので、市長。

○市長（渡辺美知太郎） マイナンバーカードのこの普及というのは、全国的に見てかなり課題になっているんです。国会にいたころも、与党の議員からもマイナンバーの普及が余りにも低いと、早急にやるようにというふうにたびたび指摘がございました。これなんかはやはり、一つは、先ほど申し上げましたが、制度、テクノロジーの進歩に行政が着いていけない、その一つの典型だと思っているんです。なので、マイナンバー、これはもちろん職員、そういう幹部クラス、私もそうですけれども、どんどんマイナンバーをまずは我々が、私は持っていますけれども、使っただけのような環境にしなければいけないですし、あるいは逆にマイナンバーがなくてもいいではないかという方々、なぜ持たなくてもいいのかと、そういった、マイナンバーを持つメリットというものも考えていかなければならないなと思っております。

社会的に、国際的にも見まして、今2つのキーワードがあると。1つはイノベーション、これは技術革新といいます。単にテクノロジー的な進

歩だけではなくて、制度的な進歩、これなんかはやはり、先ほどおっしゃったスマート自治体、そういうものも入ってくると思いますし、もう一つは、これはサステナブル、持続可能性だと思っているんです。デジタル自治体、なぜしなければいけないか。先ほど田村議員が引越しの実例を挙げていました。デジタル自治体、スマート自治体、なぜやらなければいけないのか。一つはやはり公務員が激減していくというのがありますし、もう一つは、引越しなんかは先ほどおっしゃいましたが、なかなか手続が難しいということで、これはやはり働き方改革、これも絡めてきた問題だと思っているんです。

多種多様な働き方、テレワークであったりサテライトオフィスであったり、そういったお話を先ほどさせていただきましたが、そういうのを包括的に見てスマート自治体、どのように行っていくのか。そしてその第一歩としてマイナンバー、これをまず普及させていって、那須塩原に引越すのはすごい楽なんだよ、気軽に行けるんだよ、わざわざ平日の中、仕事を、時間を割いてまで手続しなくてもいいんだ、便利だね、そういったところから始めていきたいと思っておりますので、ぜひとも引き続き、このスマート自治体についてはご指摘いただければなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） ありがとうございます。

さらにこの方針、これに書いてあるところですが、市町村ごとのマイナンバーカードの交付円滑化計画の策定の推進と定期的なフォローアップを行うとともに、なっていくところも入っていますので、ぜひ、しっかりその計数を、期限を、国は2022年までにほとんど全ての国民がという目標を出していますので、それを受けて、本市としても具体的な目標を立てていかれたほうがいいの

ではないかと思うので、その点もよろしく願いいたします。

次に、RPAですね、ロボティック・プロセス・オートメーション。これは簡単に言うと事務処理を、いわゆる自動化をしてしまうということで、業務効率を飛躍的に向上させる効果があるわけです。先ほど市長からも、自治体でも取り組むところがふえているというご答弁がありましたが、民間ではその前、特に2016年ぐらいでしょうか、ブーム的にこのRPAの導入が加速をしたんです。特に上場企業、大企業ですけれども、これは何かというと、ちょうどそのとき安倍政権のいわゆる働き方改革、これが看板政策だったわけですが、これを実現するためには、やはり業務を効率化するしかないということで、そのツールとしてこのRPAというのが爆発的に普及をしたんです。

その結果どうなったかということ、最近よく新聞等でも目にするかと思えますけれども、いわゆるメガバンク、ここが今、前例のない大リストラというのを進めているんです。だから、いわゆる目標年限は違うんですけども、みずほは1万9,000人とか、三井住友が当初は4,000人と言ったのが、ついこの間の報道では5,000人というふうに1,000人上振れしているんです。三菱が9,000人ぐらいかな。それを、要するに人を減らすというのではなくて、その人数分の業務量を削減するというのが前提になっているんです。多分、恐らく人も減らすんだと思いますけれども、実際そのぐらいの規模で人が減らせるぐらいこのRPAというのは、効果があるわけです。

当然、先ほども申し上げたように自治体も職員が減っていく中で業務の効率化を進めなければいけないわけですが、そのためにはやはり、このRPAの導入というのは必須ではないかと思

います。これはもう本当に時代の流れでどうしようもないんで、そうやって人を減らすのがいいのか悪いのかというのはまた別の問題ですけども、当然時代の流れを読んで動いていかなければいけないというところで、先ほどのご答弁でA I、R P Aについては導入に向けて検討を始めており、また先進地も視察されたということのご答弁がありました。今後どのようなスケジュール感で臨むのかについてをお伺いいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） スケジュール感というか、私は今どうしているかということ、やはり、きのうもちょっと関係省庁、私がお世話になった省庁を回ったんですが、今、各自治体でどのような取り組みをされているのか。これはもちろん先進事例を研究するとともに、まずちょっと専門家の方、A Iであったり自治体のロボティクス、それに精通している方をまずちょっとご紹介いただけないかと、そして我々はどういうことをすればいいのか、そういったことからお声をかけておまして、やはり、私も冒頭申し上げましたが、今後テクノロジーの変化に着いていくためには、恐らく限られた人材の奪い合いになってくると思うんです。

さあ大変だと、テクノロジーは進歩してしまっ、これからでは専門家を集めなくては。大変だ、大変だといって、全国各地が躍起になって探し始めたときにはもう遅いと思っていますから、先駆けて、言い方はちょっと卑近ですけども、唾をつけていくではないですけども、先駆けてやはり意識的に紹介をしていただく。それから先進事例を研究して、逆に言いますと那須塩原市から始めていこうではありませんが、やはり那須塩原が先駆けてやっていけるような取り組みをしていき

たいと思っております。

まずは、やはり私のこれまでの人脈であったり、これまで経験してきたことを踏まえて、那須塩原市ではどのようなスマート自治体にしていくのか、それを議論していきたいと思っていますし、足元は、まずはマイナンバーの普及だと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） ちなみにこのR P Aの導入については、既に導入している自治体が30ぐらい——こういった雑誌ですけども、これによれば30ぐらいです。今年度中に導入するというのが70ぐらい。栃木県では小山市です。ここが昨年検証実験をして、この4月から本格的に導入をしたようです。これの報道によれば、小山の例ですけども、試験的に導入した5つの業務で作業時間を約60%削減できることがわかった。ということで、やはり相当な効果があるよということで、今後いろいろな業務にこれから広げていくというようなことを小山市は取り組んでおります。あと、身近なところで姉妹都市である新座市。ここもことしから導入をしている、もしくはするようになります。

ちなみに、やはり国がこういった形で先頭を切って旗を振っている中でいろいろな補助事業というのがあって、ついこの間、革新的ビックデータ処理技術導入事案という総務省のプロジェクトがあって、これに——残念ながらもう終わってしまったので、この間、6月の頭に大賞に選ばれた市町100ぐらいあったんですけども、それが発表になっていましたけれども、100市町ぐらいある中で、栃木県はゼロなんです。だから、周辺では例えば筑波であったり、小山もそうですけれども、そういった事例があるのに何で栃木県は遅いというか、そういったのをわかる結果が発表になって

いたんですが、それはそれとして、今市長にもおっしゃっていただきましたけれども、やはりスピード感を持って、とりあえずやるということが必要ではないかと思しますので、小山に関しても去年検証実験をして、ことしからもう既に実施をしているということなので、2年も3年もかかる話ではないんだと思うんです。

それとあと、民間の例ですけれども、最近は中小企業にも物すごい広がってきていて、これ私、今回こういった質問をするので、いろいろパソコンで検索していたらTMCという会社が出てきたんです。これは那須塩原の駅前に本社のある労務管理のコンサルの会社ですけれども、ここが栃木県で初めて、いわゆるAIとRPAを合体させたシステムをもう稼働させているんです。私は、これはすごいな、近くにそんな会社があるのかと思って、早速電話をしてアポをとって、社長と会長に直接会っていろいろなお話を聞いて、それで実際そのシステムも見学をさせていただきましたけれども、非常に画期的なんです。

それによってやはり相当業務が効率化できて、それで、ではいわゆる雇っている方を解雇するとか、そういうことはないんですかというふうにお聞きをしたら、いや、そんなことはない。これを導入したおかげで仕事がふえてしょうがないんだよと。そういう人材をそこに回しているの、いわゆる好循環というか、それを導入したことによって会社の業績も上がるし、働き方改革にもつながるということで、そんなのを実行している会社はすぐそこにあっただけです。これは非常に行政としても、せっかくそういう会社が近くにあるので見習ってというか、ぜひ連携をしていかれたらどうかというふうにも思います。

このRPAを実際導入している市町村、これは決して大きなところだけではないです。大きいと

ころは北九州、仙台、京都、ここがいわゆる政令指定都市ですけれども、この3つぐらいしかなくて、あとはほとんど人口10万人、20万人というところがほとんどなんです。だから、そういう意味で本市にとっても導入を、当然いずれはしなければいけないでしょうから、これは早くするべきだというふうに思います。

次に、電子市役所計画ですね。これはこの3月に議会で承認をしたばかりではありますが、これもいけないんですが、改めて今回こうつぶさにそれを拝見したんです。そうしたら、いわゆるこの電子市役所計画のいわゆるもとになっているのは国の電子自治体の取り組みを加速するための事務の指針というのが、これが6年前に出ているんですけれども、これとあと、去年出た世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画かな、この2つがいわゆる本市の電子市役所計画のもとになっているというふう書いてあるんです。

最初の質問で自治体クラウドについて質問をしたときに、本市としては効果もないし必要もないというような感じだったんですけれども、この6年前の電子自治体の取り組みを加速するための10の指針というのは、これはいわゆる自治体クラウドを推進するための指針なんですね。そういう指針が過去に出ていて、その去年出た本当の新しい計画、ここにもやはりその自治体クラウドを2022年かな、期限を切って、そこまでに1,100自治体にふやすなんていう目標を国は掲げているんです。

そういう中で本市はこの電子市役所計画の中にも自治体クラウドに関する記述は一つもないし、だから、これは別にそんな国が言うからやらなければいけないということは全然ないので、いわゆる自主的というか、独自の運用があっただけでいいんですけれども、でもちょっと違和感があっ

たのは何で、共通のクラウドを利用しているから効果がないというふうな答弁だったと思うんですが、私は素人考えで、それだったらなおさら何か連携しやすいのではないかなというような思いがしたんですけれども、その辺について、もしわかればご教示をいただければと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 少し答弁のところの意味合いがちょっと違うかなというところはあるんですが、栃木県の場合には同じところの業者さんを利用して、ある程度の共通プラットフォームの中でオプションのところで動いているというのが今、現状です。クラウドを利用していないというが、クラウドは利用しているんです。そういう状況の中で直ちにそれをやることによって、ではスケールメリットがさらに出るのかというふうな状況にはないという意味に考えていただければと思います。

自治体クラウドの必要性、それから有効性については全く否定するものでもございませんし、方向性としてはそちらのほうに行くんだろうと。それによって標準化されることでコストの低減につながるという、まずは大きなメリットがある。あわせてこの分野、市民誰もが先ほどのAI、RPAにもちょっと戻るところはありますが、マイナンバーカードまで含めて、全員がその環境に対応できる状況にもないというところを考えまして、両方からみでセーフティーネット的に手作業も残しながらみたいな、過渡期的にはそういうものをつくっていく必要があるんだろうなというふうに考えています。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

それとあと、この電子市役所計画、ちょっとこ

れは細かいことなんですけれども、これをこう見えていて、これには32項目だったかな、取り組みですね。それが37つにわたって記載をされています。そのうちで実施しますと最後に書かれている取り組みは2つしかないというか、2つあるんです。これは何かというとアンケートです。あと、教育者に対する研修かな、は実施します。これは当然実施するんだと思うんですけれども、それ以外の30ぐらいは、その半分以上は末尾が「調査、検討を進めます」、「調査、研究を進めます」なんです。

本来こういうスピードが要求される計画、時代の流れに着いていくためには、まずそういうものだと言われればしょうがないんですけれども、計画というのは基本的には、やはりいついつまでにするというのが計画だと思うんですね。この那須塩原市電子市役所計画の三十幾つに関しては一つもその期限が組み込まれていないんです。数字も入っていないんです。これは本来我々というか、私みたいに民間に長くいた人間にしてみると、もうしょっちゅう計画ばかりつくっていただけでも、あり得ないというか、これでは要するにPDCAの検証のしょうがないんだと思うんです。

だから、ちょっとそれは見ていて気がついた点なんですけれども、そういう意味でも見直しを早くしたらどうかというふうに最初の質問で申し上げたんですが、その辺については、そういうものだということであればそれはそれでしょうがないんでしょうけれども、改善の余地はないのかについてお伺いをできればと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 電子市役所計画の最後のこの文字の閉め方の部分がちょっと歯がゆいというところだと思います。基本的な考え方で申し上げ

げますと、なかなか行政の計画の中で実施しますという、この手の計画では書きにくいというのは実際のところですね。その仕組みとしては、こういう計画の中で頭出しをし、研究、検討をし、今度は実施計画ですね、市の実施計画の中で実際に数字を盛り込み、最終的に予算化をされて実施していくという仕組みがベースにあることは確かでございます。

「検討します」がやらない検討ではなくて、実施に向けて検討するというお受け取りをいただくと、そういうところで計画をつくり、実施計画に反映し、予算に反映するという流れでご理解いただければなというふうに思います。

○議長（吉成伸一議員） 市長。

○市長（渡辺美知太郎） この電子市役所計画、これ私の任期の前の話ではあるんですけども、電子市役所計画だけではなく、確におっしゃるとおり行政の計画というのは、やはりPDCAであったりとかKPI、そういったのを回せるようにしなければいけないなと思っているんです。もちろん余り載せ過ぎてしまうと、今度は言質をとられてしまうのではないかと、そういうおそれもあるんですが、いずれにせよ電子市役所計画のみならず、シティプロモーションだろうが何だろうが、やはり目標を掲げて、それに邁進していくというのは全ての全般的な取り組みだと思っていますので、そういったことも、もしお気づきであれば今後もご指摘をいただきたいなと思っていますし、極力数値目標というのは掲げていきたいと思っています。

もちろん何でもかんでも載せてしまうとうなっているんだとなってしまうんですけども、なるべくそういった注目をされているようなこととか、あるいは危機感を持って当たらなければならない、そういったことは、やはり数値目標であったりと

か、目標を定めていきたいなと思っています。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） 前向きな答弁を大変にありがとうございます。

それでは、これもちよっと私、よくわからないのでお聞きするんですけども、地域情報プラットフォーム、これの活用についてというようなことでいろいろ書かれていて、これはほとんどの自治体が導入しているみたいな書き方をしているのがあったんですけども、この地域情報プラットフォームの活用についてというんでしょうか、それがおわかりになればお聞きしたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 我々の分野、行政の分野でございますと、例えば住民基本台帳情報、それからJA情報、そういったものについては地域情報プラットフォーム準拠登録事業者というのが構築しておりますので、そういう意味でマルチベンダー化の対応ができていているという意味で使わせていただいております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） では次に、いわゆるオープンデータ、これが非常に電子市役所に関してはさまざまな面で効果があるので、どんどん公開してくださいというようなスタンスが国のスタンスではないかと思うんですけども、本市もそのオープンデータカタログサイトの中で相当なデータが公開をされているかと思います。私もちょっと見たんですけども、やはりほかの市町と比べると非常に那須塩原市のデータが多いなというイメージがありました。実際こういう、今後さらにオープンデータの公開を進めるのかとか、あと、現在のオープンデータ率というんですか、そういうのがもしわかればお伺いいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 那須塩原市のオープンデータ、議員ごらんになって、比較の問題ではないですが、他の市町よりちょっとデータが多いというお話をいただきました。本市で現在、このサイトで公開しておりますデータセット件数でいきますと154件。他の市町と共同でデータを出していますので、データ設定数全体が234件なんです。そのうち154件が本市のデータと。このデータについては今後できるだけふやしてまいりたい。また、サイトを見てくれたお客さん、訪れたユーザー数でいきますと、昨年度9万件以上の閲覧がなされているというところで、一定の効果も出ているんだろうなと思っております。

率ということですが、こういう件数がありますよというお話が出てきますと、その分母のほうの捉え方がちょっと難しい。全体が行政上こうして分母が何件で、そのうちの154件という捉え方がちょっと難しいので、率については現在出せる状況にないということでございます。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

あと、先ほど市長からも触れていただきましたけれども、いわゆるIT人材、これの人手不足が非常に進んできて、業界であったり国を超えて争奪戦が始まっているという現状がある中で、当然市役所としてもそういった人材は育成しなければいけないでしょうし、今後もそういった専門性の高い人を採用する必要があるかと思うんですけれども、多分これは手をこまねいているとどんどんほかに取られて、そういう人材も採用できないし、かといって、では庁内で育成していくのかかといってもなかなか難しい部分もあると思うんですけれども、やはりこの辺は非常に柔軟に考える必要が

あるかと思いますが、改めてそういったことに対して、何か市として認識というか、対応というか、お考えなのかどうかをお伺いできればと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 今、認識であったりとか人材不足であったり、ご指摘ございました。実は、自治体のAIであったりとか、ロボティクスの話というのは、実は私が市長になってから行政側の、執行部のほうから、市長、AIだとかロボティクスに精通している人を紹介してくれないかというふうに言われまして、私も、意外と言ったら失礼なんですけれども、実は私がやるぞというのではなくて、実は行政側の今までの幹部のほうから私のほうに問い合わせがありまして、別に、手前みそになってしまうんですけれども、行政側としても我々執行部としても、このAIに関しては危機感を持っているのではないのかなと、私自身が率直に私から言ったのではなくて、幹部のほうからそういった人材を紹介してくれと言われたので、認識は持っているのではないかなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

ぜひ、スピード感を持って対応していただければというふうに思います。

あと、いわゆるスマート自治体の転換に伴って、いわゆる基幹業務のシステム経費というんですか、これが相当削減、情報システム経費かな、が減らせるということだと思うんですが、本市として年間のその情報システム経費のいわゆる合計額、どのくらいかかっているのかというようなことがおわかりになればお伺いをしたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 情報システム経費という捉え方は非常に難しいんですが、これ、私どもの企画部で大もとになるところの情報管理費という予算科目がございますが、そこで管理をしている金額で申し上げさせていただきますが、平成30年度の金額でこの管理費が3億4,400万円ほどになっております。平成29年度の数字がおおよそ3億6,600万円という数字でございます。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） 当然スマート自治体の転換が進めばこの部分が、どれくらい減るかわかりませんが、かなり減るので、それをまた違う分野に回せるので、ぜひ、そういう点からも早目にスマート自治体への転換については進めていただければというふうに思います。

あと、これはちょっと意見なんですけれども、いわゆるそういうスマート自治体への先進地、そういうところは、いわゆるこういった行政をつかさどる部門は何ていう課が担当しているかということ、例えば松山市なんてすごい自治体に関しては先進的なところなんですけど、ここは総合政策部電子行政課という課が担当していたんですけども、これがこの4月に、電子行政課でもいいのではないかなと思うんですけども、これをICT戦略課という課に名称を変更しているんです。

つくば市、ここは政策イノベーション部情報政策課、小山は総務部IT推進課、あと宇城市という、これは九州の熊本の先進的なところですが、ここは企画部情報統計課、あと栃木県、ここは経営管理部情報システム課というような、その課の名前をただで何をしているのかなと大体イメージがつくようなところに対応しているんですけども、本市の場合はシティプロモーション課が担当なので、シティプロモーションとこの電子行政というのはなかなか結びつきづらいという

ような気がするんですけども、だからシティプロモーション課の名前を変えるということではなくて、その辺も含めて、その事の重大性に鑑み新しい課を創設するとか、そういった考えもあってもいいのではないかなというふうには思うんですけども、その辺はいかがお考えでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 姿勢を示すインパクトがある名前というお話、組織論になりますと、やはり規模の大小、那須塩原市の場合、残り3人、5人というところで課という置き方はしていない。ただ、シティプロモーション課に現在ありますが、係としては情報という係がございますので、それが今担当している。少し考え方として違ってくるのかなというのが、今までどちらかというところの管理、システム管理が大きな仕事の割合を占めていたんですが、これからはやはりその戦略、IT推進、そういったところに業務量がシフトしていくんだろうと、そんなところを見ながら組織については考えさせていただきたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

あともう一つ、この電子市役所計画にふるさと納税管理システムを導入しますかな、という表示、文言があったんですけども、これはどのようなものかについてお聞きをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 現在、ふるさと納税、本市でも多くの皆さんにご協力をいただき、寄附をいただいております。その情報管理、宛名情報であったり金額の管理であったりというのは、今、実は中で職員がつくったシステムで整理をしております。それを一元管理、ワンストップの特例申

請なんかにも対応できるようなシステムが、今ほとんどできています。そういったものを、費用対効果を考えながら導入していくというようなものとしてはかなりもう何度か更新されて、システム的にはでき上がっていますので、その辺を検討したいというところで、ふるさと納税システムというものを outsourching させていただきました。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

他の市町では、いわゆるそのふるさと納税のシステムをいわゆる RPA に任せているというところが結構あるみたいですから、本市も仮にそうであれば、その RPA の導入のきっかけにもなるのではないかと、今、思いましたけれども、その辺も検討の余地があれば検討していただければというふうに思います。

あとは、情報化推進本部が副市長をトップにしてあるかと思いますが、この情報化推進本部の活動状況についてお伺いできればと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 本部の活動状況というお話ですが、大体本部として会議を開催するのは年に2回ほどです。この本部に求められている機能としましては、情報化に関する調査、研究、計画の立案、そういったところ、さらには情報システムの効率的な利用導入、情報化推進のためにその他必要なことというところで、セキュリティーポリシーであったり、計画策定であったり、セキュリティー監査、そういったところの対策がこれまでの主な内容でございます。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

いずれにしても、このスマート自治体への転換というのは、これは何のためかという、や

はり市民のいわゆる利便性の向上のためです。あと、那須塩原市の魅力を高めるためだと思いますので、ぜひスピード感を持って、部局横断的に話し合いを進めていただければというふうに思いますので、お願いいたします。

これで(1)は終わりとさせていただいて、2です。スクールロイヤー導入について。

いじめや保護者への対応など、学校で起きる問題の解決へ法的なアドバイスを行う弁護士、スクールロイヤーが注目を集めています。現在の学校は教員の力だけでは対応が難しい問題がふえており、学校側が客観性や中立性を保ち問題の対応に当たるには、弁護士の支援は非常に有効であると言われていています。教員の精神的、物理的な負担も軽減されることになり、子どもと向き合う時間がふえ、教育現場がより充実することが期待されることから、以下の事柄について伺います。

(1)本市の学校現場における法的な助言を必要とするトラブルの現状について。

(2)スクールロイヤー導入の考えは、よろしくお願いたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 今、学校の先生というのは何をするのが本業なのか。私はそれが一つのテーマになっていると思うんです。これは那須塩原ではなくて一般的なイメージで申し上げますが、今、学校現場、非常に教職員の方々、多忙であると。本来の教育だけではなくて、会議であったり部活動の指導までしなければいけない。那須塩原は割と教職員の労働時間、こういった一日の仕事、時間を割いているのか、そういったことは前向きに当たってはおりますが、地域によってはこれだけテクノロジーが進んでいる中で、例えば紙媒体で連絡を取り合っているとか、会議にせよ何にせ

よ旧態依然としたシステムになっているのではな
かろうかというのが、国の中でも大変話題になっ
ておりました。先ほどもお話がございましたが、
スマート自治体、自治体の業務にもテクノロジー
の進歩を取り組むということで、私も市長になる
前はエデュケーションとテクノロジーを合わせた
エドテックの導入などもちょっと携わらせていた
だいたことがございます。

一般的にテクノロジーと教育というと、例えば、
こんなことはもう那須塩原はとっくにやっていま
すけれども、電子タブレットを入れようとか、そ
れから生徒がある先生に、これだけの時間を授業
に割いてもらったなら成績がこんなに上がったよと、
どちらかという生徒が主体になって見られるこ
とが多かったんですけども、やはり当時は、生
徒ではなくて教職員の先生方が本来やるべき職務
にどのぐらい時間を使って、これは教職員でなく
ともできるのではないかという業務にどのぐらい
時間を取られているのか、そういった定量管理を
すべきではないかといった議論をしたことがあり
ます。

これだけテクノロジーが、あるいはさまざまな
取り組み、部活でなくとも、例えばクラブチーム
があるよというのが終戦後の状況に比べるとう
かなり変わってきているわけでありまして。極端な
言い方をすると、私自身、政治家になる前は民間
企業で教育関係の仕事をしていましたが、今はス
タディサプリのよう学習面でさえ教職員でなく
ともある程度できると。とすると、では教職員の
方は何をするのか。私はやはりこれを教育だと思
っているんです。もちろん勉強も重要ですがけれ
ども、やはり人としての、大人になるにつれどう
いった精神を育むのかとか、そういう教職員の方
が本来やるべき教育にどのぐらい力を割いていける
のか、やはり非常に大きなテーマであると思っ

ております。

いじめの問題とか、そういったさまざまな事件、
事故、ソーシャルワーカーであったりとかスクー
ルカウンセラーの方、そういったソーシャルワー
カーやスクールカウンセラーの方もまだまだ不足
をしているのが現状でございます。そうした認識
を持った上で答弁に当たらせていただきますが、
本市の学校現場におけます法的な助言を必要とす
るトラブルの現状、こちらについては、いじめや
不登校、虐待など児童生徒に関することや保護者
に関する事など、対応が難しく、法的な視点か
ら判断しなければ解決できない問題がふえており
ます。

そうした問題について、現状は市の顧問弁護士
に相談をして、助言を得ているのが現状でありま
す。やはり、いろいろな保護者の方であったりと
か、さまざま、これだけ一般的に訴訟社会と言わ
れるような現状がふえておりますので、恐らくこ
うした法的なアドバイスであったりとか法的な支
援、教職員の先生というのは、これは当たり前で
すが教育のプロであって司法のプロではありません
ので、そういう司法的な、法的なサポートとい
うのも今後必要ではないかなと思っております。

スクールロイヤーの導入の考えであります
が、スクールロイヤーを導入することによって、学校
で発生する法的な対応が必要となるさまざまな問
題に対して、弁護士による専門的な助言を得た上
で、的確かつ迅速に対応できるようになると我々
も考えております。さらに、教員の負担が軽減さ
れることで、子どもに向き合う時間もふえ、教育
の質が高まることが期待をされているので、本市
でもスクールロイヤーについて研究をしていき
たいと思っております。教職員の本来やるべき
教育にできるだけ時間を割いてほしいという思い
であります。

しかし一方で、例えば、ロイヤーですから、弁護士の方に来ていただくと、やはりそれなりの、では報酬はどうなるのかとか、そういった人件費に関する問題とか、そもそもどういう方にお願ひすればいいのか、そういった問題もあると思いますので、これは引き続き研究対象にしていきたいなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） ここで昼食のため休憩いたします。

午後1時会議を再開いたします。

休憩 午前11時56分

再開 午後1時00分

○議長（吉成伸一議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

—————◇—————

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） それでは、スクールロイヤー導入について再質問をさせていただきます。

(1)と(2)は関連していますので、一括して質問させていただきます。

先ほど市長の答弁で、市の顧問弁護士に相談し、助言を得ているというお話がありました。具体的にどのような相談というか、紹介できるような事例があればお聞きしたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） これまでも市の顧問弁護士に対して何件か相談をさせていただいたことは確かにございます。ただ、具体的にここでお話し申し上げるとするのは、個々の事例に触れていく

と特定の事案、あるいは個人の問題に触れることがありますので、申しわけありませんけれども、具体的なものにつきましてはご勘弁を願いたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） わかりました。

やはり、いわゆる顧問弁護士ではなくて、専門性の高いスクールロイヤーがいれば、より一層実効性が高まるというか、効果が大きいのではないかというふうには思います。やはり市単独でそういった制度を導入するというのはなかなか難しいのかなというような感じもしますが、そうであれば、いわゆる周辺の市町、こういうところなんとか連携をして、本市がリーダーシップをとってスクールロイヤー導入に向けた取り組みを進めるのはいいのではないかというふうに思いますけれども、その辺に関してはいかがお考えでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） スクールロイヤーの導入についてのさまざまなシステムというのいろいろ考えられるとは思いますが、今、議員がおっしゃったのも一つの考え方として参考にさせていただければというふうに思っております。

○議長（吉成伸一議員） 市長。

○市長（渡辺美知太郎） 各市町との連携ということなのですが、これ、私のイメージですけれども、やはり那須塩原市の教育環境、それから那須塩原市の教育環境における課題と周辺の市町村、市町での環境とそれに対する課題というのは、恐らく個々に異なるのではないのかなと私は思っています。仮に連携をしてとなると、例えば偏りが出てしまうのではないかとか、あるいは、本来であればその町で完結する問題がちょっと広がって

しまうのではないかとか、そのあたりちょっと懸念事項といいますか、私としてはちょっと連携となるとまた、多分、まずそれぞれの市町の教育現場環境、私は那須塩原市の教育環境、もちろんこれ周辺の自治体はもちろん努力されていますけれども、私は那須塩原の環境というのは、今非常にいいのではないのかなと思っておりますので、そこら辺はちょっと、仮に提携をするという話でありますと、そこら辺はよく周辺自治体の教育環境も研究しなければいけないのかなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 4番、田村正宏議員。

○4番（田村正宏議員） いずれにしてもその未来を担う子どもたち、また教育に携わる教師の方々のことを最優先にお考えをいただいて、スクールロイヤーに関しては今後検討を進めていただければというふうに思います。

それで、最後になりますけれども、いずれにしましても、冒頭申し上げたようにこの令和の時代というのはさまざまな行政課題が顕在化をしてくる。自治体間格差というのがますます広がる時代になるというふうに言われています。2040年問題とかいって、殊さら国は危機感をあおっていますが、高齢化であったり長寿化というのは、これはもう避けられない現象だと思いますが、では少子化はどうでしょうか。決して避けられないことはないと思うんです。何で少子化を前提にいろいろな話が進んでいるのか。これはもう市長を先頭に那須塩原市、オール那須塩原で、いわゆる住みやすいまちづくり、誰にも選ばれるまちづくり、誰一人置き去りにしないまちづくりを進めたときには、間違いなく人口減少に歯どめがかかって上昇する、そんな町の姿というのはないことではないというふうに思うんです。

やはり渡辺市長の若さとフットワーク、スピー

ド、そして強力なリーダーシップで、那須塩原が県北のみならず栃木県をリードし、日本中から注目をされるぐらいの、そんなはらはらどきどきする市政を運営していただくこと期待しまして、私の代表質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（吉成伸一議員） 以上で公明クラブの会派代表質問は終了いたしました。

—————◇—————

◇ 相馬義一議員

○議長（吉成伸一議員） 次に、敬清会、20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） それでは、敬清会会派代表質問に入ります。

まず、渡辺市長の市政運営方針についてということから入っていきたいと思います。

渡辺市長は本年4月21日に実施された那須塩原市長選挙において、「ともにつくろう那須塩原市の未来」をスローガンに、新時代のまちづくりを「人を創る」、「安心を創る」、「まちを創る」、「産業を創る」、「未来を創る」の「5つの創る」を掲げ、36歳の若さで那須塩原市4代目の市長とられました。現職の参議院議員でありながらも、本市の若手の方々を初め多くの市民より渡辺美知太郎市長待望があり、それに応えて4月8日に出走を決意して、わずか2週間での当選でした。このことは市民が新しい視点と風を期待していることと感じます。

市長は平成25年に参議院通常選挙において、全国最年少で当選され、総務委員会委員、環境委員会委員、財政金融委員会委員、また東日本大震災復興特別委員会委員、災害対策特別委員会委員を歴任し、平成30年10月には財務大臣政務官に就任

されるなど、今後、国会議員としてますます活躍を期待されていたことと思います。言うまでもなく、祖父には那須野が原の発展において誰もが名前を上げる政治家、渡辺美智雄元代議士で、その血筋を受け継いでおられます。

平成の時代、日本は初めて戦争のなかった時代でもありましたが、自然災害が多く発生し、バブル経済が崩壊するなど経済は長期低迷の時代でもあり、また、少子高齢化による人口減少が進んだ時代でした。新時代、令和が始まりました。渡辺市長にはこれまでの国会活動で培った政治手腕、人脈を生かして、公約にあげた「5つの創る」を確実に遂行し、那須塩原市の未来を明治初期よりこの地に入植し未来を夢見た先人たちの思いと同じく、ここ、私、市長とこれ、言葉がずれましたが、どきどきわくわくするまちづくりを臨むところから、以下の点についてお伺いします。

(1)那須塩原駅周辺再整備について。

①まちづくりに新庁舎はどのような位置づけになるのか、また、どのように進めていくのか伺います。

②新たにグラウンドデザインをつくる考えはあるのかお伺いします。

③東那須野東通り3・3・4号線、黒磯那須北線3・3・2号線、国道4号線の県道、国道の整備についての対応についてお伺いします。

(2)まちなか交流センターと（仮称）駅前図書館は黒磯駅周辺の活性化につながるのか、お伺いします。

(3)那須高林産業団地、那須塩原駅周辺への企業誘致をするに当たり、どのような取り組みをするのかお伺いいたします。

(4)市長公約を推進するに当たり、平成31年度当初予算で対応できるのかをお伺いします。

(5)先日、片山さつき内閣府特命担当大臣が来庁

された経緯についてお伺いします。

以上、お願いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 敬清会の相馬義一議員の会派代表質問にお答えを申し上げます。

先ほど私の経歴についても触れていただきました。本当に今思うと偶然だと思うのですが、総務委員会、環境委員会、これは地方自治にも非常に密接に関係をする委員会でありました。総務委員会については、これは旧自治省に関しての審議を行うところでもあります。地方自治や、それから地方交付税、そういった取り組みも審議に参加をさせていただきました。また、震災復興特別交付税など、そういった震災に関するような事例もございました。また、環境委員会の場合は原発事故の問題ももちろんですし、国立公園、日光国立公園を活用した国立公園満喫プロジェクトを初めとする、環境から発生をする観光政策、私がたびたび申し上げておりますガストロノミーリズムなども環境省が管轄をしているプロジェクトでありましたので、そういった委員会で培われていただいた経験、少しでも市政に取り込ませていただければなと思っております。

先ほどから田村議員もそうでしたけれども、わくわくどきどき、どきどきわくわく、はらはらどきどき、たくさんのお言葉をいただいておりますが、いずれにせよ多くのご期待を寄せていただいておりますので、そうしたご期待に応えるべく、若輩者ではありますが、取り組んでいきたいなと思っております。

それでは、まず初めに那須塩原駅前、駅周辺の再整備についてのご質問にお答えしたいと思っております。

新庁舎の位置づけになります。那須塩原駅周辺

の再整備に着手するに当たりまして、まずは那須塩原駅周辺のまちづくりのビジョン、これを明らかにすることが必要かと思っております。先ほど来答弁をしておりますが、この那須塩原駅前というのはただの駅前ではないと思っております。栃木県北の北の都、北都の玄関口であります。つまり、駅前をどうするかではなく、まずそもそも那須塩原や場合によっては栃木県北はどうあるべきかと、どのようなビジョンを持つべきか、そして、その上で玄関口はどのようにするのがふさわしいか、そういったビジョンを明らかにしていかなければならない。

これは、もちろん市民の皆様のご意見もこれまでたくさん審議をしてきましたし、内側だけではなく外側から見て、こういう駅前だったら行ってもいいのではないかと、こういうようなまちづくりをしてくれると入りやすいんだ、そういったご意見を多々いただいて、これからの令和にふさわしいまちづくりをしていきたいと思っております。

そして市庁舎の建設、駅周辺のまちづくりのビジョンの建設、検討を進める中で、ビジョンとの整合性の確認をしていかなければならないと思っております。市庁舎というのはまちづくりを進める上で重要な構成要素だと私は認識をしております。

次に、②番グラウンドデザインについてのお尋ね、ございました。駅前周辺のまちづくりビジョンを明らかにすることが最優先課題であり、これから外部の有識者であったり、専門家であったり、そういった方々から客観的なご意見やご提言をいただいきたいと思っております。

次に、③の東那須野東通り、黒磯那須北線、国道4号の県道、国道の整備についてお答えを申し上げます。

黒磯那須北線については、これまで県に対して

早期事業化、早期完成に向けて要望を行ってまいりました。現在、県が黒磯那須バイパス整備事業として上黒磯地区から那須町高久地区を結ぶ区間の整備を進めているところであります。また、大学通りから国道道路の区間につきましては、今後のまちづくりのビジョンを踏まえ、黒磯那須バイパスの整備状況を見きわめながら、これは早期に要望していきたいと思っております。東那須野東通りについては、県に対して県道東小屋黒羽線の起点振りかえ及び黒磯那須北線までの延伸を継続して要望しているところであります。

国道4号につきましても、三区町から西富山までの区間の整備が進められており、早期完成に向け国に対し整備促進を要望しているところであります。

昨日私は国交省に参りまして、本県選出の高橋克法前国土交通大臣とともに阿達雅志国土交通大臣政務官のもとを訪れ、国道4号矢板大田原バイパスの事業化の御礼に伺ったところであります。そうした国への働きかけ、これまで以上にしっかりとしていきたいと考えておりますし、県との調整も、これもしっかりと行ってまいりたいと思っております。

いずれの道路につきましても、本市が県北の中心都市として活気あふれる町をつくるために大変重要な道路であると認識をしておりますので、これまで以上に国や県、そして近隣市町との緊密な調整、連携を密にしてまいりたいと思っております。

次に、まちなか交流センターと駅前図書館、これは黒磯駅周辺の活性化につながるかについてお答えを申し上げます。

今、取り上げました施設、黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業としての整備を進めております。この事業の目的は、都市機能の向上による持続可

能な中心市街地黒磯の再興を目指すものであります。まちなか交流センター、地域の方々のさまざまな活動の拠点であるとともに、「食」をテーマとした情報発信の拠点でもあり、観光客をも巻き込んだ交流の場となるとも考えております。

余談になりますが、我が国とオーストリア、ことし国交150周年を記念をしております。まちなか交流センターでもオーストリアフェスタを企画しております。私はオーストリアと、リンツ市になりますが、リンツ市と那須塩原、この関係はほかの国内のどの市町村よりも、我が市にとって最も正当性があるのではないかと考えておりました。そうした国際交流の場としても、ぜひともまちなか交流センターを活用して、那須塩原市の魅力を、市民の方はもちろん市外の方にもどんどん発信をしていって、那須塩原にいれば地方に住んでいても海外との交流が身近に感じられるんだよ、そういったイベントを行って、市内外に発信をしていけるようなまちなか交流センターにしていきたいと思っております。

駅前図書館、「利用者が主役」のテーマに基づき、さまざまな読書環境や本にめぐり合える楽しさを提供する場としても整備を進めています。駅前という立地を、市民だけではなく市外からの利用客も想定をしております。図書館というのは、今、非常に全国各地ございますが、地方創生のモデル事業になったりとか、ただ図書館としての機能だけではなく、コミュニティの交流であったり、それから新しいサービスの提供、そういった、今、中心地として非常に注目をされています。

駅前図書館、恐らく完成したデザインは非常にユニークなものになると想像しております。外見だけではなく内面もどのぐらいユニークにできるか。これは検討していく余地は大いにあると思っておりますが、できて、那須塩原市が誇れるよう

な図書館にしていって、図書館もわくわくどきどきするような図書館にしていきたいと思っております。

次に、那須高林産業団地、那須塩原駅周辺への企業誘致、こちらについてのお答えをいたします。

那須高林産業団地、一日でも早い企業立地を図るため、迅速かつ計画的な整備を進めて、多くの雇用が見込めるような製造業であったり、固定資産税の増収が期待できる企業を誘致していかねばならないと思っております。誘致に当たりましては、私がこれまで培わせていただいたご縁など、あるいは人脈を通じてトップセールスをかけていって、ぜひとも那須塩原市に来てください、那須塩原市に工場、あるいは那須塩原市に働きに来てください、そう思えるような取り組みをしていきたいと思っております。

(4)番の市長公約の推進に当たり、平成31年度当初予算で対応できるのかというご質問をいただきました。

現在、公約に掲げた各項目の具体的な事業化に向けて検討を進めているところであります。今後、公約事業の実施スケジュールや既存事業との調整等を行い、実施可能と判断したものから逐次予算化をしていきたいと思っております。言うまでもなく、今回はイレギュラーな市長選でございますので、ある意味で走りながらまちづくりをしていかなければならない。走りながら公約を実現するために予算をつくっていかなければならない。非常に慌ただしい面もありますが、既存の事業、過去の意見、これまで行われてきた議論の積み重ねを尊重しつつも、令和にふさわしいまちづくりを行っていかなければならないと考えております。

そして最後に、片山さつき内閣府特命担当大臣が来庁された経緯についてお答えを申し上げます。

5月11日に片山さつき大臣が県内3市を訪れて、

本市では新幹線を軸とした移住定住促進広域連携プロモーション事業について現地視察をいただきました。片山大臣からは、二拠点居住の可能性であったり、これから栃木県のみならず北関東が二拠点居住のモデル事業になるのではないかと、大きな期待を寄せているといったメッセージをいただきました。なぜ来庁されたのか、これは国サイドの決定事項でございます。私のはかり知るところではあまりせんが、地方創生推進交付金を活用して、小山市と連携しての取り組みが特徴的であって、それが大臣の目にとまったものかと私は考えております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） 答弁をいただきました。

それでは、随時再質問をさせていただきますが、質問の前に、私たち敬清会という会としては、今までも同じような質問を常にしてまいりました。その根本となる質問の内容としては、やはりこれだけ人口が減ってきている。これは、那須塩原市は先ほどの佐藤代表の答弁の中でも比較的人口の減りが鈍いというお話がありました。しかしながら、今後の那須塩原市を考えた場合に、もちろん日本全体の問題もございますが、ここに、特に新幹線を利用した東京近辺、近郊の方から、こちらに移住してほしい、あるいは会社、企業を誘致して、なるべくここに定住する方、人口の減らないような施策をしっかりと取り組んでほしいというのが我々の希望でございます。

そういった質問の中の、今回令和に入り渡辺市長が誕生したわけでございますが、この前文中でもありましたが、市長は国会議員としてのこれまでに培った経験とか人脈というのが、私が思うにははかれないほどのすごいものがあるのではないかと、私含めて市民もそういった期待をしているということがあると思います。そういった期待

の中で市政運営をしていただくというのは嬉しいことでもありますし、それだけ責任を感じてほしい、そのように思っております。

そういう中で、まちづくりに対しては、先ほどの答弁で、まず駅周辺の整備ビジョンを先にやると。その中でビジョンをつくっていきながら、新庁舎というもののあり方を考えるという答弁だったかと思えます。このビジョンをつくるに当たりまして、当然いろいろな方のご意見を聴取することだと思えます。その辺で、先ほどの佐藤代表の答弁の中には、まださまざまな検討中ということがありまして、はっきりしたことは言えないということですが、市長が描く、発表できないことはあるかと思えますが、その辺も含めて、もう一度ちょっと確認の意味でお願いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） まちづくりビジョンの検討会、その構成メンバーについてのお尋ねであったかと思えます。まちづくり、これは当然、もちろん市民の皆様が主役であります。私の一番の職責は、これは住みやすいまちづくりをする。これが一義的だと思っております。

今回私が、先ほど私の選挙についてお話がございました。私がいただいてきたお声、さまざまなお声がありますが、私が最も大きく、恐らく多くの方が期待しておられるのは、多くの方を那須塩原市に連れてきてほしい。多くの企業を那須塩原市に持ってきてほしい。そういったお声が一番多かったのではないのかなと思っております。もちろんほかの意見もございますが。そうした中ではやはり、もちろんこれまで私も那須塩原の市民の皆様と、市長になる前からいろいろな議論の場、参加をさせていただきましたし、さまざまな議論を行ってきたかと思っております。

しかし一方で、では第三者はどのようにこの町を見ているのか。企業であったり、あるいは県や国といった、そういった関係機関であったり、そして一般の方々、東京にお住まいの方であったり、都会に住んでいる方はこの那須塩原をどのように見てこられるのか。そして、どのような町であれば魅力的に映るのか。そういった議論はまだまだ余地があるのではないのかなと思っております。そうした、外から見てこういうふうにすればもっと魅力的になるよ、そういったご議論をいただきたいなどと思っておりますし、これまで行ってきた議論、これも先ほどの答弁で申し上げましたが、それは継続的に行っていきたいと思っておりますし、もちろんこれは市民の方が大事ですから、市民の方々のご意見も聞きつつ、外から多くの方が来られるような魅力的な町、そして駅前にしななければいけない。

先ほども申し上げましたが、那須塩原に初めて来るんだという方は、恐らく那須塩原はきっと軽井沢のような——御用邸も隣町にありますから、きっと軽井沢のようなすばらしい、美しい町並みで、いろいろな観光があつていろいろな楽しいことができるんだろう、多分そんな期待を寄せてこられると思うんです。そうした方々の期待を上回るような思い出をつくらせていただける、そのようなまちづくりをしていきたいなどと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） 県北の玄関口としての駅周辺整備ということかと思えます。この那須塩原市というのがポテンシャルの高い、あるいはいろいろな利便性のいいとか言っていますが、実は私たち地元に住んでいる人からすれば当たり前のことであつて、市長がお米がおいしいと。お米がおいしいのは、僕らふだんから食べているので、それは当たり前であつて、PRするようなことで

はないのかなという、そういったイメージがありますし、私どもも議員として他市町村、県外に伺うことも多々ありますけれども、そういったときに「那須塩原市のいいところ、何ですか」と言われたときに、よく、特に牛乳がおいしいとか、お米がおいしい。あるいは、何と言つても新幹線、あるいは高速道路という交通網関係を訴えるわけですが、しかし、ずっとここに住んでいた市民にとるとそれが当たり前になっている。先ほど市長のほうが外部の方を取り入れて検討会等々も進めていきたいという、非常にそのとおりでないと私も思います。

玄関口那須、栃木県というとはほとんどわからない方が県外へ行くと、特に九州のほうに行くと、栃木県というところにあるんだらうと。で、僕の話し方を聞いていて、茨城ですかとよく言われます。いや、茨城は隣なんですと言うと、ではどこなんだらうと。栃木県ってそんなものですね。そういった中で那須塩原市にこれから移住、あるいは定住していただくために、本当にこの玄関口としてしっかりとプロジェクトも含めてグラウンドデザインをつくらせていただいて、選ばれる町になってほしい、そのような思いからこのような質問を再度させていただいているわけです。

グラウンドデザインについてはそういったことで、客観的な意見を聞くということでございますので、しっかりと聞いていただき、我々のわからないような意見をしっかりと聞いていただきたい。そのように思います。

③の東那須野東通り、いわゆる3・3・4号線、あるいは3・3・2号線、4号線、この件については私、前回の代表質問でもやっております。そのときもお伝えしたのは、県に要望していますという答弁をいただいています。あるいは国に要望を継続的にやっていますと。そこまでの答弁なん

です。それでは一般市民の方は納得しませんよと、そこを何度も訴えているんです。今回、この件をさらに取り上げたのは、市長の選挙公約の中にもちゃんと載せていただきました。そういった中から市長がどのような考えを持ってこれから取り組んでいくのか。先ほどから言われているように、国、あるいは県と密接に連携をしながらやっていくという答弁もいただきましたが、その辺についてもう一度伺い、確認をさせていただきます。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 今、議員がおっしゃった意見はもつともで、実は今回答弁をつくるに当たりまして、我々執行部ともよく相談をしたんです。要は、いつも答弁で頑張りますと、要望していますというのではなく、できる限り、ある程度光が見えているものは、これはある程度、もう少しすればとか、あるいはもうちょっと頑張りますとか、そのぐらい言えないかというのを正直に会議をしたんです。

ただ、どうしてもこれ要望ですから、やはりこれ、勝手に我々がいついつまでにできますよと言うと、では、要望されている県と国はどうなるのかというのがありまして、今回はちょっと時間がないということでありましたので、ちょっとそこから辺どこまでお示しできるかというのは、今後やはり国と、もちろんこれ、国・県との関係がございまして、彼らともよく相談をして、ただ一方で渴望されている問題ですから、これは地元の方々にとっては一刻も早くこれは整備をしてほしいと、いつできるんだと、このままここにいていいのかと、そういったご疑問、恐らくもう議員もたくさん聞いておられて、恐らくそういったたくさんの方々の負託をいただいて、今、議員として私どもに質問をされておられますので、私どもや

はり、そうした市民の方々のお気持ちを酌み取って、これはやはりちょっと国・県と相談をしなければいけないのですが、どこまで言っているのか、今後の課題としてこのぐらいだったら言っても差し支えないですかと、あるいはそのぐらいだったら大丈夫ですか、そういったこともちょっと協議をしていきたいなという結論になりました。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） 私の質問に対して、今受けた印象としては一步前に進んだのかなと、そのような気がしております。那須塩原市がこの県北の中心市でありたいと、中心市にならないと、そのような思いはもちろん執行部、あるいは我々議員もそう思っております。単なる人口が多いだけではなくて、やはり新幹線もあつたり、そういったことを含めて、トータル的に見てこの那須塩原市が県北の中心市北都であるということをしかりと一番の課題の先頭に立った上での行政としての執行をしていただきたい、市長にもそのようにお願いを申し上げます。

当然できることとできないこと、それは市長、はっきり言ってもらいたいと思うんです。中途半端に、このように検討していますではなくて、これは今検討した結果、ちょっと今のところ待ってくれと、そういったことをしかりとお願いしたいほうが私にはいいのではないかと思いますので、その辺お願いします。

それでは(2)のまちなか交流センターと（仮称）駅前図書館についての質問に入ります。

答弁をいただいて、私、この質問をしたけき、ちょうど私のほうの行政区で回覧板というのでこういった広報が回ってきました。6月5日号の広報。そうしたらすごいですね。一面にぱっと、一面も交流センター。開くと黒磯駅前の写真が載って、さらには交流センター「くるる」のあれが載

っていました。今回この絵を見て非常にうれしく思いました。本当に市が黒磯駅前の活性化というものに取り組むんだという意気込みを何か感じ取りました。市民の中には、黒磯駅前は何かやっているぐらいだなぐらいの感想しかなかったかと思えます。

そういう中で、こういった写真つきでしっかりと上空から撮った写真を載せていただいたことについては、感謝を申し上げるとともに、地元の方が交流センターが「くるる」オープンを記念してということで、こういったチラシも出していただいております。こういった取り組みがこの駅前の今回のこの整備事業、計画事業の中の目的の一つがこれで一つでも達成されていくのかなと、そう思っているところでございます。そういった中で、先ほど交流センターについてはオーストリア、リンツ市の交流にもこれを正当性、ここでやりたいという人の答弁があったかと思えます。これは、もしそういった予定があるとすれば、どのような予定なのかお伺いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田一彦） 私どものほうで今、準備を進めておりますのはオーストリアフェスタという事業を計画しております。オーストリアとの国交150周年に当たる年ですので、そこを記念し、さらにリンツ市としての私どもとの交流というところをあわせまして、本年10月に予定をしております。第1回の実行委員会を先週開催させていただきました。市内の各種団体、それから我々行政の各関係部署の職員、そういった職員で第1回目の実行委員会を立ち上げ、今後重ねながら10月6日の開催に向けて準備を進め、ある程度の形が固まってきた段階で、また議員の皆様にもお知らせをし、協力をお願いするという予定でございます。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） ありがとうございます。

交流センターは随分建物がもう完成し、そして市の職員も2人ほど向こうにも在中しているということでございます。黒磯駅前、多くの方、市民がこれに参画しているわけでございます。そういった意見の中でこれができ上がり、そして運営されるということで、非常に喜ばしいことでありますし、目的に沿った運営になることをご期待申し上げます。

さて、あと（仮称）駅前図書館でございます。

駅前図書館については「利用者が主役」ということでテーマを持っていただいて、市民だけではなく市外の方も利用していただけるような図書館をつくりたいと。この質問を出して建設部とやりとりした中で、ハード的にはそういった建物にしたよと、そういったお話をいただきました。そしてこれから、今度、運営ということになるとソフト的なこと、部が変わりますので、その辺も含めていろいろ話をさせていただきました。

私たちが会派としてちょっと思ったのは、この図書館を当初つくるとき、いろいろな意見を聞いた中で、図書館の方向性というものは当然ながら組んだかと思えます。平成27年に図書館の基本計画があるかと思えます。今回これでき上がって、これから運営するわけですが、その基本計画に沿った方向性がうまくいっているという判断でよろしいでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

教育部長。

○教育部長（小泉聖一） 先ほど議員おっしゃったように、平成27年度に（仮称）駅前図書館、これを整備するに当たって基本計画というものをまとめています。この策定に当たりましては、駅前で、黒磯駅前及び周辺地域活性化懇談会、あるいはえ

きっぷくろいそなどというところで市民の方が集まっているいろいろ検討した結果提言としていただいたもの、このようなものをもとに市民の意見を反映した計画ということで、現在教育委員会のほうで、この（仮称）駅前図書館、来年の7月ぐらいにはオープンができる見込みというところで、オープンに当たって運営、管理というところについて、最終的なところを現在詰めているところということになっております。これについては基本計画に沿ったような形で検討を進めております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） ちょっと細かい質問をしますが、この図書館の運営に当たっては、以前全協か何かでお示しいただきました。まず最初のうちは直営でやると。直営でやったあと、指定管理者に移行するという方向性であるという説明を受けたかと思えます。その辺についてももう一度お願いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

教育部長。

○教育部長（小泉聖一） ただいまのご質問なんです、以前山本議員からのご質問等でもありましたように、まず初めは直営というところで、市の職員が管理した中でソフト事業の展開なども行っていきたいというところで考えています。初めから指定管理ということで業者をお願いするわけではなくて、市の意向、考え方というものを踏まえた中で運営したいということと、あと、新たに作る施設はかなり大きな施設というところで、これについては、やはり維持管理というものがどの程度かかるかというものが予測できない部分もございまして。実際に指定管理する場合には、事前にその辺のところも予算規模として入れている中で契約をするということになってしまいますと、過不足が生じた場合どうするかというようなこと

るもありますので、その辺も踏まえた中で、まずは直営で運営をしていきたいということで考えております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） この質問については、先ほど申し上げたように会派で話し合った中で、果たして市民の声と現実に運営に当たって、本当に一致した方向性を向いているのかということが疑問であるということからこの質問をさせていただきました。その中で、簡単な説明をしますと、例えば、今ある黒磯図書館を閉鎖して新しく駅前図書館に、今の黒磯図書館の機能をそのまま移しただけのような図書館ではいけないだろうと。その辺についても説明をちょっとお願いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

教育部長。

○教育部長（小泉聖一） 議員おっしゃっていますように駅前の図書館、これをオープンするに当たりまして、黒磯地域に同じような図書館、二重になってしまうだろうというところで、黒磯図書館を閉鎖して吸収するというような形で現在進めております。現在の黒磯図書館についても、実際に利用されている方、あるいはボランティアとして協力いただいている方、こういう方々もいますので、その部分についてはやはり引き継ぎをしていかななくてはいけないということで、単なる黒磯図書館を移築しただけというところではなくて、その部分も含めた中で、また新たに施設のほうについても、今までの黒磯図書館以外のところについても、機能としていろいろ今、整備の中で加えておりますので、そういうところの活用ということも含めた中で図書館のほう、運営のほうも進めていきたいと考えております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） ことしからその常任委

員会が変わったわけですが、この間まで私は建設部のほうの常任委員会にいたこともありまして、この建物、あるいはそういった方向性については随分説明を受けてわかっているところがございます。ただ、新しくこの再生事業の中の一つの図書館として、今までの黒磯図書館と余り変わらぬような図書館では意味がない。ですから、地域の活性化につながるような図書館という意味において、今回の図書館は何か特色ある、皆さんに、市民にお示しできるような特色あるような取り組み、あるいは、例えばの話ですが名誉館長を置くとか、そういったことについての考えがあるかどうか、お伺いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 議員がおっしゃるとおりでありまして、単に機能を移しただけでは全く意味がないと思っているんです。先ほど私もちょっと、自分はイレギュラーな時期に市長になったと言いましたが、まさに走りながらやっていく事業の一つがこれだと思っています。そのさまざまな各町の図書館、スタバが入っていると、電子書籍の扱いがすごいとか、いろいろな特色それぞれあると思うんですが、私としてもちょっと正直、今、走りながらやっているような状況でございますけれども、これも本当におっしゃるようなことにならないようにしていかなければならないなというふうに思っておりますので、その点についてはぜひ議員からもご提案、ご指摘いただければなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） せっかくあそこにそういった形で再生事業としてやるわけでございますので、もちろんハード的な面も含めてしっかりと立派な図書館、他市と比べることは余りいいこと

ではございませんが、それに比べて立派に、いい図書館だなと思われるような図書館の運営も含めて、これから取り組んでいってほしい。

先ほどちょっと部長にお願いしたんですが、例えばの話で結構です。名誉館長的な方を置くという考えがあるかどうか、ちょっとお願いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

教育部長。

○教育部長（小泉聖一） 図書館の運営管理という部分の中で、特色あるものとしましてアートステーションというものもやはり整備していく中で、これはアート369プロジェクトというものを那須塩原市でやっている。そこの起点としての場所ということも考えられますので、そういうものを特色あるものとしてやっていきたいと。

また、そういうようなものを活用していく中で、議員おっしゃっています名誉館長というもの、こういうものについても、どのような方がいいのか、また置く必要があるのかないのか、置いた場合どういうようなご指導、どういう活躍をしていただくのか、こういうところにつきましても、この後検討などをさせていただきたいとは思ってはおりますけれども、まずは来年の7月にオープンというところに向けまして、管理運営のところを現在詰めているというところをしっかりとやっていきたいと考えております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） 今、市長、それには教育部長の答弁を聞いて、これはしっかりと黒磯駅前の活性化につながるという思いを感じておりますので、やっていってほしいなと思います。

続きまして(3)番になります。

那須高林産業団地、あるいは那須塩原駅周辺への企業誘致ということでございます。

市長は選挙公約というか、選挙運動の中でIT

企業、あるいはテレワーク、サテライトオフィスなんかも来ていただきたい。さらには、その那須高林産業団地、私が執行部に問いただしたいのは、せっかくあれだけの土地を購入をしました。もちろん購入にはお金もかかるし、いろいろな事情があった中で購入し、産業団地として整備をする。特別会計もつくって、これを整備していくことです。ですから、整備をした。それでは企業誘致をどこかに頼んで誘致を頼む、あるいはちょっと県のほうにお願いするとか、それだけで放っておいて、1年、2年、3年、4年、ずっとあのまま空き地のようになったのでは困るということをお伝えしたいんです。

できる限り、人口も減ってくる中で早期に、分譲したと同時に、いわゆる新しい企業があそこに来ていただけるような、営業も含めて、これは市長のトップセールスになるかもしれません。そういった含めまして、しっかりと取り組んでいってほしいというのが私の考えでございます。市長のお考えがありましたらお願いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） ご指摘いただきましたとおり、これ、貴重な資金が投入をされて開発されたものでございます。私も人任せにするのではなく、これはみずからトップセールスをして、具体的にも、例えば栃木県に、県北にゆかりがあるような企業様、それから都内に近いほうがよろしい企業様であったり、そういった企業様を洗い出して、あるいは私がこれまでおつき合いのあったところ、そういったところを丁寧に説明をして、トップセールスをかけていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） この件も、以前から私は企業誘致ということについては質問をさせてい

ただいております。先ほどと同じになりますが、県に要望をしている、あるいは行ってお話ししている。それだけでは先へ進まない。ですから、渡辺市長の今までの経験や人脈を使っただいて、できる限り市民の期待に応えるような産業団地、あるいは那須塩原駅前に企業誘致をしていただきたい。

いろいろな事務所も含めまして、特に私の地元で聞くお話から言うと、那須塩原駅、こちらに来たいんだけど、宿泊所がない。宿泊所が足りない。ホテル、旅館がちょっと——もちろん温泉街へ行けば幾らでもあるんですが、新幹線で来た場合に泊まる場所がないんだと、そういったお話も聞きます。そういったことを含めまして、その辺の駅前の整備についても、その辺も含めまして整備を進めたい。

多分、この後一般質問で小島議員がちょっと質問されるかと思えます。簡単に言うと規制緩和と申しますか、そういったことも含めて、あるいは条例等もありますが、取り組んでいってほしいというのが私どもの会派の考えでございます。ぜひとも積極的な取り組みと同時に、以前和歌山県の橋本市の市長の話がこの議会でもさせていただきました。そんなことも含めまして、積極的な企業誘致に取り組んでいってほしい、そのように思うわけでございます。

それでは、(4)番の市長の公約を推進するに当たり、この予算の件です。平成31年度の当初予算については、当然ながら前市長の君島市長が市政運営とともに予算を組んだわけでございます。もちろん大枠は変わりはないかと思います。そういった中で市長の公約を進めるに当たって、予算が当然ながら足りないことも多々あるのかと思えます。そういったことについて再度、今考えられる中で、当然、市長の公約の事業化を進めるに当たっては

お金がかかることも多々あると思います。そういったものを含めて、この予算というものをどのように捉えているのか、お伺いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

副市長。

○副市長（片桐計幸） 今年度予算につきましては、前市長の市政運営方針に基づいてということでございまして、新市長誕生、そしてこれから公約事業化に向けて取り組んでいくということでございまして、その中で予算化されるものについては補正予算で対応していきたいというふうに思っております。それは可能だと思います。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） 予算、補正予算というのがありますから、これはこれで納得するところでございますが、先ほどから言っているように、やるべきことはやるということで、しっかりとした予算、補正予算を組んでいただいて、議会側にお示しをさせていただいて、それを我々が決議するかどうかですから、その辺をしっかりと二元制をやってほしい、そのように思っております。

市長、まずそういった中で具体的な事業化、市長が今取り組もうとしている事業というものが、何か特色のあるものはありますか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 大きな事業というか、まずはやはりまちづくりの検討会を開かなければならないと思っておりますので、まずはその検討会、そういった、これはもちろん有識者であったり、当然にこれは市外から来ていただく、そういった交通費であったりとか、そういう検討会はどう行いたいと思っておりますので、まずはそういった人的なものが出てくるのかなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） わかりました。

それでは(5)番に入ります。

片山さつき内閣府特命担当大臣が来庁されました。これは、先ほどの答弁にあったように、南部北都、小山市との提携の中でそういった地方再生的なことの事業を目にしたというお話もありました。しかし、一般の方、私どもが先日片山さつき大臣が来たんだということをお話すると、よく那須塩原市に来てくれたなど、それなりの事業をしているのかと。そういったことも含めまして、これは新しい市長ができて、新しい市長の力ではないのかなんていう声もあります。そういう捉え方もされておりますが、その辺についてはどうお考えでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） これはあくまでも国サイドの決定事項でございますので、私のはかり知るところではございません。事実関係として申し上げますと、本当に私ごとで恐縮なんですけれども、片山大臣は私の祖父が大蔵大臣のときに大蔵省に入省された。昭和57年入省ということで、いろいろと議員のときにはご指導賜った、そういった関係はございます。また当選してから、片山大臣だけではなく、関係省庁、お世話になった先生方、大臣、多くの先生方をお尋ねして、そのうちの1人が片山大臣でございました。

昨日も内閣府に訪れました。そういった国会時代に培わせていただいた人脈、定期的にご挨拶に伺ったり、あるいは大臣といった政務三役だけではなく、各省庁の当時お世話になった担当の職員の方とも交流をして、今、日本の最前線ではどういった議論が行われているのか、そして国では何を重点的に地方創生の目玉として考えているのか、そういったことは逐一アンテナを高くしていきたい

いと思っております。

片山大臣がこの那須塩原市にいらしたときに、二拠点居住をぜひやってほしい、そういったお言葉をいただきました。片山大臣ご自身が幼少期にご地元と、それから自分が勉強する際には東京に行くと、それから自分が勉強する際には東京に行くと、そういった実体験も踏まえて説明をされておられましたので、今後そういった二拠点、あるいは多拠点といいますか、平日は東京にいて、土日、あるいはお休みの日は地方に行って地方のライフを楽しむ、そういうことが今後ふえていくだろうというお言葉をいただきましたので、もちろん私どもは私どもで金太郎あめにならないようなこともしなければなりませんし、では、私どもの強みは何か。これは那須塩原市しかできない強みは何か。これを打ち出しつつ、それが逆に我々の強みと国のほうで重点的にやりたいんだと、そういったものをマッチングさせていければなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 20番、相馬義一議員。

○20番（相馬義一議員） ありがとうございます。

今回、市長が突発的な選挙ということで渡辺市長が誕生したわけでございます。当然そういった中では、渡辺市長は前文にも話しましたが、わずか2週間ぐらいの選挙戦で市長になられた。一方では余り、36歳という若さ、さらには、果たして那須塩原市をよく知っているのかというご意見もあります。しかしながら、きょうの私だけではなく会派代表質問の答弁を聞きますと、非常に勉強なされているし、我々から見ると先行きの明るい市長なのかなと思っております。

その今回の6月議会会派代表質問についても、4つの会派、全会派が代表質問をする。さらには一般質問についても、数えたら15人の議員が質問をしている。というのは、これはやはりある意味

市長に対する、市長の考え方をお聞きしたい、さらには市長がどのような市政運営をして、この那須塩原市をどのように持っていくのかということのあれだと思えます。どうぞしっかりと、きょうだけの答弁ですが、私は満足いく答弁をしているなと思っております。

最後になりますが、私、議員になって渡辺市長が4人目の市長でございます。栗川市長、阿久津市長、そして君島市長、そして渡辺市長という形でございます。そういった中で市長といろいろな場所でお話を、今までの市長ともさせていただいた中で、市長というこの職務の大変さというものを非常に痛感しております。これが原因かどうかは別ですけども、残念なことに栗川市長は塩原の「女将もちつき祭」の寒い中での公務の後、帰ってきたら亡くなってしまった。君島市長についてはもちろん持病ということもあったのかとは思いますが、そんな状況にあった。渡辺市長は幾ら若いといっても公務多忙ということが多々あります。先ほどから聞いていますと国にも足を運んでいる、出向いている。

そういったことを繰り返す中で、できればある程度、市長になったばかりですから、まだどうのこうのとは言いたくありませんが、できる限り市長が出るところは出て、行かなければならないことは出席する。しかしながら、部課長がちゃんといますから、部課長でも対応できることは部課長にお願いをする。さらにはもっと、ちょっと問い詰めるということはございませんが、片桐副市長については、今年のそれこそ12月議会中から突然ああいったことになり、ことしの4月初めまで職務代理者として副市長という形から職務代理者。渡辺市長が誕生して、その後片桐副市長の顔を見たときに、いや、やつれているなと正直思いました。非常に疲れていると。そのような、これ私の

主観でございますが、非常にそう思いました。

そんなことも含めまして、市長には徹底した健康管理とそういった、先ほど言ったような、出なければならぬときは市長が出てもいいですけども、そうでないときはちゃんとこう区別をしていただいて、何せ首長でもありますから、市民のための市政運営をしていってほしい。副市長が1人でいいのかどうかというのは私もわかりませんが、あるいは国に行くときは市長がみずから行って、こちらに残った副市長、部門を分けて、外部的にはこちらの副市長、内部的にはこちらの副市長と、市長の二人制というのを、二人制から一人制になったばかりでございますが、その辺も含めて検討していただければと思います。

これは要望みたいな形になりますけれども、今後の市長の活躍と那須塩原市の発展、それは我々議員も同じでございますので、同じ目線でやっていきたいと思いますが、これからもよろしくどうぞお願いをし、私の会派代表質問を終わりにします。

○議長（吉成伸一議員） 以上で敬清会の会派代表質問は終了いたしました。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午後 2時06分

再開 午後 2時16分

○議長（吉成伸一議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

◇ 眞 壁 俊 郎 議 員

○議長（吉成伸一議員） 次に、志絆の会、18番、

眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 皆さん、こんにちは。

志絆の会、眞壁俊郎でございます。どうぞよろしく願いいたします。

代表質問4人目ということで、私の質問ほとんどかぶっておりますが、お答えのほうはしっかりいただきたいなと思っておりますので、ぜひよろしく願います。

それでは、早速代表質問まいります。

1、市長の市政運営について。

渡辺市長は那須塩原市長選挙において、令和の時代にふさわしい新しいまちづくりを訴え、多くの市民の皆様から、36歳という若さの可能性を期待されて那須塩原市の市政運営を任せられました。さきの臨時議会において、「初心忘れることなく、公約の実現と着実な市政運営を図り、市民の皆様とともに、那須塩原市の発展に向けて全身全霊を傾けて取り組む」という力強い発言をいたしました。那須塩原市発展のために大いに活躍されることをご期待いたします。

目指すべき市政運営の基本理念として「5つの創る」、「人を創る」、「安心を創る」、「まちを創る」、「産業を創る」、「未来を創る」を掲げ、市政運営に当たることからお伺いするものであります。

(1)那須塩原市の現状についてお伺いをいたします。

(2)令和の時代にふさわしい新しいまちづくりについてお伺いをいたします。

(3)「人を創る」の教育や子育て支援、医療や介護など、ライフスタイルステージにあわせた各種施策の実現と連携強化についてお伺いをいたします。

(4)「安心を創る」の自治会機能のより一層の充実と自主防災組織と消防力の強化についてお伺い

をいたします。

(5)「まちを創る」の東那須野東通り、黒磯那須北線、国道4号線バイパスの整備についてお伺いをいたします。

(6)「産業を創る」のサテライトオフィス、テレワークの推進についてお伺いをいたします。

(7)「未来を創る」の本市の魅力を市内外に向けて積極的に情報を発信し、さらなる移住定住の促進についてお伺いをいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 志絆の会、眞壁俊郎議員の会派代表質問にお答えを申し上げます。

私も国会議員のときに、最後は自民党会派にありましたが、最初のころ、無所属のころはかなり質問が最後のほうになってきますので、大体質問が重複するんです。そういうとき角度を変えた質問をしますと、私も角度を変えて答弁をしたいと思っております。

まず、最初に那須塩原市の現状についてのお尋ねがありました。那須塩原市、非常に自然に恵まれ、農業、観光業、商業、工業、このバランスは非常にいいなど。そして、何とんでも都心部へのアクセス、これはもうずば抜けている。このアクセスのすばらしさ、このよさというのは本当にすばらしいものだと思います。しかし一方で、問題も多々あると思っています。先ほど申し上げましたが、人口減少は、これ着実に来ているということ。そして高齢化の問題もあります。

そして何よりも、恐らくこの那須塩原市が活力、もっと元気になれるのではないのかなと思う最大の原因は、デフレマインドがまだまだ根深く残っているのではないかと考えているんです。デフレマインドって何だと。一言で言えば、要は景気が冷え込んでいるのを当たり前だと思っている。あ

るいは、景気が冷え込んでいるということをもう仕方ないと思っている。誰かが思っているというよりは、この地域そのものがデフレではないのかな。これはすごく危機感を感じています。

先日、阿部俊子外務副大臣に那須塩原に来ていただきました。言われたことは、産直で野菜を買ったと。非常においしいんだけど、安く売り過ぎではないかということを言われました。やはり、この栃木県内を見ても、栃木県南、先ほどからお話が上がっています小山であったりとか、それからお隣の埼玉、茨城の結城市、そういったところは非常に、今、活性化をしているのではないかと、私思っていますし、宇都宮なんか、やはりこれは県庁所在地ですので、景気の波が来ているのではないかと。福島県も今、国が責任を持って入っておりますし、仙台においては今、物すごい富が集中しているなど。

そんな中で那須塩原だけが取り残されているのではないかということ、たびたび私は申し上げておりますが、取り残されているというのは、やはりこのデフレから脱却をしている状況ではないのかなと思っています。要は、デフレとちょっと横文字を使ってしまいましたけれども、景気の冷え込みですね。この冷え込みをどうやって払拭していくか、これは一つの大きなテーマだと思っています。阿部副大臣が野菜を安く売り過ぎだと。ではいきなり値上げします。これでは混乱を来してしまうので何をやったらいいのか。

一つはやはり付加価値をつけるという習慣をつけることが大事なのかなと思っています。ブランド力もそうです。栃木県のコシヒカリ、1俵当たり60kg。年によってももちろん値段は違いますが、大体1万4,000円ぐらいだとします。1万3,000円から1万4,000円。では、新潟産の例えば同じコシヒカリでも1万7,000円はする。魚沼産

に至っては2万円もします。では、これは栃木県の米が、いや、魚沼産のコシヒカリが栃木県の米より1.4倍おいしいからそうなるのかと。そんなことはあり得ないわけです。それはもう決定的なブランド力の差であると思っていまして、これが景気の一つの冷え込みか、冷え込みではないのかと、それは一つのバロメーターになるのではないのかなと私は思っています。

今、ちょうど時期的に塩原かぶ、カブのシーズンでございますが、私は一つは高原野菜、これは付加価値をつけるにはちょうどいいといたしますか、付加価値をつけるにはうってつけの素材ではないのかなとっておきまして、そういう野菜であったりとか、割と高く評価をしていただける作物、これも一つの景気の冷え込みを脱却する材料の一つではないかなと思っておりますし、あるいは観光業。観光業なかなか、例えば都心の——私もびっくりしたんですけれども、この間国会に行ったときに前泊をしました。こちらだったら五、六千円ぐらいの都内の普通のホテルが、市内の同じぐらいのクオリティーであっても、塩原の老舗旅館の2倍ぐらいの値段がするのでびっくりしました。

観光業の方としゃべっていると、やはりできる限りプレミアムをつけてほしい。付加価値をつけてほしいという話をしていますし、観光客の方々も、努力してなるべく付加価値をつけて、安さを売りにするのではなくて、極力付加価値をつけてお客様に泊まっていただけるように努力をしている、そういったお言葉もいただいておりますので、この景気の冷え込み、これはもちろん外部からの多くの方に来ていただいてお金を落とさせていただく、これはもう必要なことですが、一方で我々も、景気が冷え込んでいるのは当たり前ではないんだよ、栃木県北だけ、まだ波が回復していないんだ、我々でプレミアムをつけていこうではないか、

そういった意識が私は非常に必要だと思っているんです。

次に、令和の時代にふさわしい、このまちづくりについてお答えをしたいと思います。

令和にふさわしいまちづくり、一つはきょうも議論しましたテクノロジーの変化に対応できるような環境をつくっていかねばいけない。自治体の職員さんが、ほとんどなり手がなくなってしまった。ああ、困った。では、これからロボティクスに詳しい職員さんを探そうではないかと、それではもう手おくれですから。時代の流れに対応する。まずは対応できる人。それから一歩先駆けてできる。応用ができるようになるような、時代の変化にちゃんと着いていって、さらにそれを応用できるような強みもしなければいけない。

そして、ポテンシャルを最大限に引き出していかなければいけない。おいしいものをつくっているよね。それだけで終わりではなくて、おいしいものを高く買っていただく。ブランド力をしっかりと向上する。こうした施策をして令和の時代を乗り越えていく。今、海外情勢を見ても、国内であつてもどうなるかわからない状況でございます。那須塩原市が生き残る、そして那須塩原がリードするためにはそうした、今申し上げたような時代の流れに的確に対応できる、それからブランド力をつくる、ポテンシャルを最大限につくる、引き出す、そういった取り組みが必要ではないかと思っております。

「人を創る」。これ、3つ目でございますが、教育や人、子育て環境、医療や介護などライフステージにあわせた各種施策の充実と連携強化について、これもしっかりやらなければいけない。市民一人一人がまちづくりを担う人材でありますので、教育から高齢者の方々が安心して住んでいただけるような、これはやはり縦割りではなくて複

数の行政分野が緊密に連携を図っていかなければならないなと思っています。人を育てることは、人を育てて終わりではなくて、これは将来的にはまちづくりになりますし、最終的には未来につながる話でございますので、これだけやっていたらいいではなくて、しっかりと、常に横の関係を意識して取り組む必要があると思っています。

「安心を創る」。自治会機能のより一層の充実と自主防災組織と消防力の強化。こういった問題、先ほどもお答えをしておりますが、自治会や自治会長連絡協議会と連携をして、まずは各自治会や自治会長が抱える課題や情報の共有を図れるように支援を行っていきたくと思っています。

私、先ほどタウンミーティングの話をしました。私はこのタウンミーティング、いや、もう自治会やコミュニティの取り組みというのは、私は両輪だと思っています。一つの車輪は、これはトップセールスだったりとか、外から見て魅力的なまちづくりをする。これは一つの私の大きなテーマ。そして、もう一つがやはりこの自治会であったりとかコミュニティであったり、今度は市民の方の声を聞いて意見を交換する。私はこれは両輪だと思っていますので、まちづくり、外から見て魅力的なまちづくりと同じように両輪だと思って、このタウンミーティングには取り組んでいきたいと思っています。

そして「まちを創る」。5つ目でございますが、これも先ほど答弁も申し上げましたが、東那須野東通り、黒磯那須北線、国道4号バイパスの整備、こちらについて、まずは黒磯那須北線について、県に対して早期事業化、早期完成に向けて要望を行っております。現在、県が黒磯那須バイパス整備事業として上黒磯地区から那須町高久地区を結ぶ区間の整備を進めているところです。黒磯那須バイパスの整備状況を見きわめて、早期にこれか

らも要望していきたくと思っていますし、東那須野東通りについては、県に対して県道東小屋、そして黒羽線の起点振りかえ、黒磯那須北線までの延伸を継続して要望しているところでもあります。

国道4号についても、三区町から西富山までの区間整備が進められておりまして、早期完成に向けて、国に対し整備促進を要望しているところでもあります。国に対しても積極的に要望、そして県に対しても要望していきたくと思っています。

6つ目に、「産業を創る」サテライトオフィス、テレワークの推進についてお答えを申し上げます。

今、IT企業なんかに行きますと利益率が物すごいよいと。地元の企業であれば1桁パーセントぐらいなのが、IT企業とかであれば20%、30%は当たり前だと。そして、そういう彼らはもうオフィスに来ないでくれと。とにかく地方に住んでもらって、いろいろなイマジネーション、いろいろな人と交流をして新しいアイデアを生み出してくれと。もう会社に来る必要はないというのがITの企業であります。

そういった方々、ぜひとも那須塩原市に住んでもらって、駅前に、東京では住めないような邸宅に住んでいただいてテレワークをしていただく。あるいはサテライトオフィス。今、サテライトオフィス、大分都心部では根づいてきておりまして、サテライトオフィスの成功事例というのは、調べてみますと、まず一つは企業の規模に合わせたワークスペースの確保、提供であります。これはもう那須塩原であればいかようにでも調整ができるわけです。ワークスペース、手狭が困るのだというのであれば、幾らでも広いスペースもありますし、駅に近いほうがいいんだ。これはアクセスのよさ、これも抜群だと思っています。

サテライトオフィスが、むしろ那須塩原、これ

からの大きなポテンシャルの一つになってくるのではないかと考えておまして、こうしたアクセシビリティのよさや、そしてワークスペースの提供、オフィスの広さになるのでしょうか。そうした成功事例の要素はきっちりと抑えているのではないかと考えておまして、サテライトオフィスの誘致、それからテレワークの誘致、テレワーク、国のほうではかなり働きかけをしておりますが、まだまだ地方ではテレワークと言ってもびんとこなかったり、余り積極的に取り組むところが少ない。これはチャンスだと思っています。ほかの地方がやらないのであれば、これは那須塩原が先陣を切ってやって、サテライトオフィスもぜひ来てください。そういう取り組みをしていきたいというふうに考えております。

片山大臣も二拠点居住の話もされておりましたし、どんどんこれからの時代の変化に対応していくようなまちづくりをしていきたいと考えております。

最後に7番の「未来を創る」。本市の魅力を市内外に積極的に情報発信して、さらなる移住定住の促進を図ること。これをしっかりやっただけではなりません。那須塩原市の魅力を発信する、重複はしますが、これまでも私が市長になって思ったのは、発信というのはしっかりやっていると、このテーマはこうですよ、このテーマはこうですよ。広報なすしおぼらを見てもしっかりやっていると。だけれども、ベクトルがそろっているのか。これはもう少し検証する必要があるのではないかなと思っています。ゴールはどこなのか。このプロジェクトのゴールは何なのか。

例えば、先ほど相馬議員がお示しをした広報なすしおぼらがございます。これはよくできていると思うんですけれども、では、これは結局誰を相手にしているのか。市外の人に提供しているのか。

いやいや、これは違う。これは市民の方に町なかの取り組みであつたり、那須塩原市のイベントはこういうふうになっているんだ、こういう予定になっていますよ、今度はこういう道路が工事になるから気をつけてくださいね。恐らくそういうターゲットングをしてやっているんだと思いますが、そういった全てのプロモーション活動について、もう一度ゴールを設定する。この目的地は何なんですか。場合によっては数値を設けると。

ただ、もちろんいたずらに数値目標をつけるといって、ちょっと奇をてらったようなものになってしまうので、これはもう事業によって精査をする必要があると思いますが、そういう戦略をしっかりと見てやっていって、那須塩原の魅力、市内の方にも、いや、実は那須塩原ってこんなことをやっているんだと、知らないことがたくさんあると思うので、市内の方に関しても魅力を提供しなければいけないし、市外の方にはもっと多く知ってほしい。そういう取り組みをしていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 今まで市長のお話を聞いて、本当に新しい目というか、新しい、そういうところがすごく感じられる答弁でした。まさに那須塩原の現場につきましては、平成17年に那須塩原が誕生してことしで14年です。この間、本当に農業、工業、観光、そして自然の豊かさ、こういうもので発展はしてきていると、私はこれを感じております。ただ、本当にここに来て非常に少子高齢化、人口減少時代が思った以上に進んでいる。これもまさに現実でございます。

そんな中で、やはり先ほど市長が言ったようにブランド力。というのは、多分那須塩原市の名前をどのように売るかということだと私は思っているんですが、その面で今回、本当に新しい36歳と

いう市長が誕生したわけでありませう。まさに私は那須塩原市長というのは那須塩原市の顔だと思ひます。先ほど那須塩原市の玄関口は那須塩原駅前だということでありませうので、やはり私は市長の顔に大いに期待をしたいなと思ひておひりますが、今までたくさん、先ほど相馬代表からあつたように、市内の行事にはほとんど顔を出してゐると、こういう状況かと思ひておひります。また、東京にもたびたび行つていろいろなことをやつてゐるといふことで、大変すばらしいなと思ひておひります。

先ほど観光の話が出ましたが、やはり観光は本当に前から力を入れているんですが、なかなか塩原という名前が、全国で温泉地としては大分上がつてきているんですが、それでお客さんが本当に來ているかといふと、なかなかこれも厳しい状況なんだろうと、このように感じておひります。もう一度ちょっとその観光の関係で、市長が塩原を、そして板室をどんな感じで売つていくのかといふのを少しお伺ひしたいなと……。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めませう。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） ちょっと卑近な例えで大変恐縮なんです、那須塩原市の資源といふのは、いわゆるするめ的な魅力だと思ひます。するめ的なって何なのといふと、かめばかむほど、つまり知れば知るほど魅力がわかるというものなんです。するめ的なので、梅干しのように考えるだけでつばきが出るわけではないんです。ただ、これがまずいかといふと、これは個性ですので、これはこれでいいと思ひてゐるんです。

では、するめ的な魅力をどうすればいいのか。一つは梅干しだとかアイスクリームに味を変えてしまえばいいのではないかといふのもあるかもしれませうけれども、やはりするめにはするめのよさがあると思ひます。酒のつまみ。梅干しはも

ちろん焼酎に入れるときもありますけれども、やはりするめであればどんな組み合わせでも、どんなおいしいお酒とするめは合うわけですから、どんどん組み合わせをしていければいいのではないかと思ひてゐるんです。

私はたびたび申し上げてゐる、例えば温泉ガストロノミー。ガストロノミー、ちょっと横文字が私も余り得意ではないんですけれども、食べ歩きの旅といひませうか、食を通じてその地域の文化や歴史を知ると。この那須塩原市はもちろん、日本遺産に認定された那須町、那須塩原、大田原、矢板といつた地域を、例えば日本遺産というパッケージを組みつつ、那須塩原のおいしいお米であつたり、野菜であつたり、牛乳であつたり、ワインはうちもつくれるし、那須町は特区があります。大田原は六つ蔵、日本酒がつくれる。そういった食材、矢板のリンゴなんか非常においしいですけれども、そういう、ある意味日本遺産に認定されたエリアを回つていただいて、夜は温泉に入つて泊まつていただく。あるいは泊まつていただくなくてもグランピングだとか、そういった手段もあると思ひます。

そういった、最初は、入り口はおいしい御飯だよ、おいしいお酒だよ、おいしい野菜だよ。それで、歩いてもらつて、実はこの地域はもともとは不毛な地帯なんです。え、それはすごいね。何もなかったらだつたんですけれども、先人たちが汗と涙を流して、こんなに住みやすい町になつたんだよと、こんなにおいしい御飯ができるようになったんだよと、これはすごいことなんだよと、そういうアピールをするといふのは一つのことだと私は思ひてゐるんです。

それから、塩原温泉、板室温泉もそうですが、保養地として長い歴史があります。1200年といふ長い歴史がございます。今、現代社会では痛まし

い事件、事故というのがふえてきております。現代医学は生理的な面については大分発展はしていると思うんです。けがをしてしまったらどうやって治せばいいか。骨折したらどうすればいいのか。病気になったらどういう薬を飲めばいいか。それは進歩してきている。だけれども、まだまだ精神的なケア、心理的なケアというのは、これから発展の余地があるのではないのかなと。ストレスマネジメント、ストレスをどうやって対処するか。そういった議論はこれから出ていくんだと思いますが、そういう意味では、この那須塩原はもともと保養地としての歴史があるわけです。

元勲たちが来て農業を開拓した。塩原に行った。それから板室温泉も。これは保養地ですから。お隣の御用邸なんかもそういった保養地としてポテンシャルが高いから選ばれている。そういった歴史があるわけですので、そういうストレスマネジメントをする。週末は温泉に入ってもらって体を休めてもらう。そういうリゾートというよりはリトリートメントというか、そういう癒しの場としても使えるのではないかなと思っておりますし、もう一つは温泉を使ったヘルスツーリズム。

今、海外では、日本人はなぜこんなに長生きをするのか、非常に注目をされています。定期的に温泉に入るという習慣もあるのではないかと、けがをしてもただつらいリハビリをするだけでなく、温泉に入ってリフレッシュをしながらやってもらおう。そういうヘルスツーリズム、そういった取り組み。いろいろなこれまでの観光資源を組み合わせて新しいパッケージにする。これが私はするめ的な魅力を持つ観光地の活用ではないのかなと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） まさにそのとおりだと思います。観光なんですけれども、塩原温泉にし

ても板室温泉にしても、多分市長、見ればわかるかと思うんですけども、非常にやはり、先ほど言ったデフレマインドというか、その辺が顕著にあらわれています。今もしっかり観光局のほうで、那須塩原という名前を本当に売っていて、全国でも結構有名な形になってきております。やはり、先ほど言った、今度は内容をよくしていく。そういう形しかないんだろうと私も思いますので、ぜひこちらについてはしっかり進めていただきたいなと思います。

新しいまちづくり。大変これは重要なことなのでお伺いしますが、「ともにつくろう那須塩原の未来」、この言葉は非常に市民の皆様にとって響きのいい言葉だと、私、思っております。まさにオール那須塩原で、その精神で市政運営をやっていくという市長の強い意思のあらわれだとちょっと思っております。

そんな中で、先ほどいろいろな話があったんですが、市民と市長がどのように絡んでいくのか。先ほどいろいろな懇談会とかそういうものという形があったんですが、やはり市長の場合、どうしても今までと同じような自治会長とか商工団体の役員とか、そういう方とはたくさんお会いするんだろうなと思うんですけども、そういう方ではない、本当に市民の声というか、そういうものをちょっとどのように拾っていくのか、お伺いしたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 先日、とある町の首長の方とお会いをしまして、その方も私が考えているようなまちづくりであったりとか、構想会議を開いたことがあると。これは私がやるか否かは別として、一つの参考になったのが、一つはやはり何事も物事を決めることにせよ、何かをつくる、あ

るいはビジョンを決めるでもいいんですけれども、これはもちろん一つは専門家を入れなければならない。それから、もう一つやはり町を代表するというか、ある程度町のことを知っておられる方、町に対して影響力のある方を入れる。

もう一つは無作為で、くじ引きで抽せんをして入れたと。とすると、きのう初めてこの町に引っ越してきたばかりだとか、今まで全然取り組みをしたことがなかったんだ、そういう方もいてすごい新鮮で、そういう方の意見が結構専門家の方にもなるほどなと思えるような意見もあったというのがありまして、では、これをやるかという、それはまだ全然決めてはいないんですけれども、そういう、私もできる限りタウンミーティングをやるというふうに言いましたので、できる限り偏りのないような、いろいろな方にお会いをしていかなければならないと思いますし、やはり那須塩原市、今まで、過去いろいろな取り組みをしてきました。

教育関係も非常に、私はほかの町よりも進んでいるのではないかと思いますし、いろいろな取り組みをしています、知る人ぞ知るといふところがまだ多いのかなと思って、今までの取り組みも、え、初めて聞いたよと、そういうことも多いと思うんです。

それは、肩書を持っておられる方だけではなく、これまでの取り組みも、もちろん新聞の折り込みもしていますし、いろいろな方も言っていますが、より多く、もっと、ある意味で交流させるというか、交通のあれですけれども、そういう交流をもっと深める。もっとまぜていく必要があるのではないかと考えておられて、何かそういう無作為抽出やくじ引きのようなものがないのかなとか、あるいは、どうやったら多くの方に知っていただけるか。これは私にとっての一つの課

題だと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） ぜひ、本当にいいタウンミーティングができることをちょっと期待したいと思います。

もう一つなんですけれども、やはりこの行政運営を行うということは、当然一番重要な関係が職員の皆様だと思っております。職員に対してどのような考え方があるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 職員に対する思いといいますか、ちょっと手前みそな話になってはしまわりますが、先ほどもロボティクスの話がありますが、幹部のほうから、実は今度AIであったりロボティクス、これは導入しないとまずいのではないかと、ぜひ市長さんのほうでこれまでの関係で知っている方はいないかと、そういった提案をいただいたこともありますし、もちろんいろいろな職員さんがいると思いますので一概には言えないのですが、やはり職員は職員で、前任者である君島市長、ああいうことになってしまったので、議会を乗り越え、何事に関しても市長不在の中、懸命に持ちこたえてきたと、そういった気概がありますし、あるいは、私がこれをやれというのではなく、幹部のほうからこういうことはできないかといった提案もありますので、そこは私も、意外と言ったら失礼かもしれないんですけれども、前向きですごくいいなというふうには思っております。

ただ、全員が全員どうかというのはまだわからないですし、いろいろな内情、問題も抱えているとは思いますが、行政をこれまで支えてきた職員とのこれまでの行政の継続性、そして私のリーダ

ーシップ、これをしっかりと組み合わせ、片方だけがひとり歩きをしてはいけないと思うんです。私があれば、これやれと一方的に言うだけでは、なかなか職員も難しいでしょうし、かといって全て職員に任せてしまっただけでは何のために市長になったかわからないので、この行政の継続性とリーダーシップ、このベストミックスを考えていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 非常に安心しました。まさに継続性、大事でありますので、ぜひ職員の力をしっかり引き出せるような、そんな行政を職員と私とともに、やはり子ども議会とも一緒につくっていききたいなと、このように思います。

「人を創る」のちょっと関係ではありますが、ちょうど市長は「人を創る」、当然、教育、子育て、今真っただ中なんだろうと思います。その中で、やはり教育とか子育てに対して、市長がちょっと率直に思っている考え方があればお伺いしたいなと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 子育て世代、子育て真っ最中でございます。那須塩原は、例えば都市部に比べますと兄弟もたくさんいますし、お子さんもたくさんいる地域ではありますが、少子高齢化というのは、単に若い夫婦に子どもをつくれとか産めとか、産め、産めと言ってできるものではなく、これは本当に社会構造のいびつな面があらわれた氷山の一角にすぎないなと私は思っているんです。単に子どもを産んだら、ではお金をあげますよとか、そんなことで少子化が直るわけではないんです。

やはり、例えば地方で生まれ育った方がいるとする。高校、人によっては大学、東京に行って、

さあ就職しますよと。ところが、故郷に戻りたいけれども、なかなか故郷、ふるさとでは職場がないんだと。では東京で働くしかないよね。そしてすてきな出会いがあつて結婚をする。だけれども、なかなか、昭和のモデルケースであればお父さんが働いて、お母さんが専業主婦ということもあり得たかもしれないけれども、なかなかやはり年取も下がってきているので、夫婦共働きでやらなければいけない。

だけれども、生まれ故郷は遠く離れた地方なんだよというときに、結婚して、子どもができましたと。1人目ですと。お父さん、お母さんは働いていますから、朝、保育園に預けなければいけない。そこまではいいとしても、ただ、例えばお互い働いていて、朝から会議だ、夫婦で会議があつて別々な会社の場合、では、どちらが送っていくのか。夜のお風呂はどうするのか。そういった問題から、子どもが熱を出した場合に、どちらかが迎えに行かなければいけない。例えば営業職で、お父さんが営業をやっていました。今すぐ戻ってきてください。お客さん、どうするんですか。

そういった、やはりまだまだ社会が子育てに優しくない。優しくないというか、これまで前提としていた家族像がかなりずれてしまっているのではないかなと。とすると、やはり東京ではなくて自分たちのふるさとである、ご両親がいる、あるいは親戚もいる、ふるさとで子育てがしたい。知っている人もたくさんいる。東京ではお隣さんもわからない。不幸な事件も起きているので保育所になかなか預けるのも怖いんだというのもあると思いますから、ふるさとで子育てをするというのは一つ。だけれども、ふるさとでは働く場所がないんだと。

とすると、やはり地方ができることはまずそういった若い夫婦、あるいは子育て世代がどこに住

んでも生きていくのに心配がない。つまり年収、ある程度の働く場所を確保して住んでもらうような、これが地方の役割だと思うんです。多分都市部は都市部でいろいろ課題があると思うんです。子育てができるように認可外保育所をふやすとか、地方は地方で逆に受け入れ先をふやす。これが一つのことなのかと思うんですけど、子育て環境、なかなか行政だけでは難しいところもあると思うんです。

国のほうでは保育所をつくります。それから保育士さんの待遇をよくしますといっても、むやみやたらに箱だけつくっても、保育士さんも数は限られていますから、今度はまた薄くなってしまったり、では保育士さんの給料を上げるといっても、1%、2%ぐらい上げたところではどっとふえるわけがないですから、これはやはり、単に子育てに直接関係している職業だけではなく、そして子育てをしている世代だけではなくて、行政も原因をしっかりと見つけて働き口をつくるだとか、あるいは地域で子どもたちを預かってもいいよとか、そういった地域で子育てをしていくような土壌をつくっていかねばならないのかなと思うんです。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） まさに市長はこれから子育て、教育と大変忙しくなる。本人もそうかと思えます。ぜひ、そういう面ではやはりしっかり取り組むことが大切だと、このように思います。

次の、「安心を創る」のほうにちょっと移りたいと思います。

近年、いつでも、どこでも、何が起こるかかわからない。そういう自然災害が多発をしております。災害が起きたときには、まずは自分、そして家族の安全、安心、自分の身は自分で守るということが一番だと、このように思っております。そして、

その次に地域の安全を守ることが非常に重要になってくるんだろうと思います。その中で、今回自主防災組織をしっかりとっていくんだということでございますが、自主防災組織の組織率というか、今どのぐらいになっているのか、お伺いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 組織率、全体で言いますと54.4%になっております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 高いのか低いのか、私もちょっと判断に迷うところなんですけど、ちょうど半分ということでありまして、やはりこれ、私、100%にさせていただきたいというのが私の考えであります。これ、なぜなかなか難しい、その辺を少しお伺いします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） やはり過去の歴史であったりとか、人間関係が全てだとまずは思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） わかりました。高林地帯も本当に少ない部落では5軒とか6軒というところもあるんです。そこを、やはりそこだけというのはなかなか難しい部分もあると思うので、ある程度地域を少し大きくしてやれるような形もできないかなと思うんですが、その辺どうでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（山田 隆） 議員ご指摘のとおり高齢の方が多い自治会、あるいは人数が少ない自治会なんかは、確かに単独では難しいと思っております。現実的に2つの自治会で1つの自主防災組織

を結成しているところもありますので、今後は、組織率を高めるためにはその辺の検討が必要かなというふうに思っているところがございます。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） ぜひ、そのように進めていただきたいと、これは要望いたします。

次の「まちを創る」の関係であります。こちらについては先ほども相馬代表のほうからありました。一つだけちょっと確認なんです。東那須野東通り、これについては第2次道路整備基本計画、こちらに載っているんですけども、黒磯那須北線、これについてはこの第2次に載っていないようなのですが、この辺ちょっとお話があればお伺いしたいんですけども。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

建設部長。

○建設部長（大木 基） 道路整備基本計画の第2次のほうに、3・3・4東那須野東通りは載っているが、3・3・2黒磯那須北線は載っていないと、こういうご質問であります。第2次道路整備基本計画については、どちらかといいますとアクションプラン的な要素でまとめてあります。3・3・2黒磯那須北線は、県が主要地方道西那須野那須線ということで継続して整備を進めております。県が整備するというので、那須塩原市のアクションプランである第2次道路整備計画には載せていないと、こういうことでございます。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） わかりました。この期間でやらないというわけではなくて、県がということのお話かと理解をしたいと思います。この2つの道につきましては、先ほどから言っている、本当に那須塩原の周辺地区のまちづくり、将来ビジョンにつながる非常に重要な道でありますので、県への要望、また国への要望という形でしっかり

進めていただければと思います。

(6)の「産業を創る」について少しお話を、再質問させていただきます。

先ほど市長のほうからありましたように、サテライトオフィスは非常に今、東京オリンピック・パラリンピックの開催によって大型の商業ビルができて、非常に今、増加しているというのが、これは都内、首都圏の状況だと思います。なかなか勧誘するのも地方については非常に難しい状況だと思っております。やはり、これ誘致するには那須塩原に何かの魅力がないとやはり来ないんだろうと思っております。この辺は先ほどから市長が答弁しているように、これからは那須塩原市を発展させて、当然ビルがないと来られないし、あと住宅という話がありましたが、その辺は本当にどんどん進めていただければという感じがします。ここについては、まさに那須塩原市の魅力をいかに発信できるかというのがポイントになるんだろうと思っております。

ぜひ、市長の今までの経歴とか経験、そういうものを全面的に使っていただけて進めていただきたいのと、私はこれは要望したいと思います。

最後の「未来を創る」の関係であります。「未来を創る」で市長が積極的に情報発信をしているということで、SNSで市長はかなり発信をしているなと私はちょっと感じているわけなんです。その手応えとか反応、こんなのがあれば少しお伺いしたいなと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 私のSNSについてのご質問がありました。私も正直、最初は懐疑的だったんです。SNSというのは、あくまでもこれ全国区、日本全国に訴えるものであって、では、そのうち那須塩原の方がどれだけ見ておられるのか

など思っております、ただ、国会議員のときから定期的に発信はしておりましたので、私も、そもそも市長ってどんな生活をしているのか、どうい——国会議員だったらわかるんですけども、日々どんな仕事をしているのか、それがわからなかったのも、まずはちょっと、では、市長ってこういうことをやっているんだよという意識で、では、せっかくだからSNSを続けてみようかとか、最初はそのつもりでやったんです。

ところが、国会議員のときよりもかなり反応がいいというか、全然知らない方からも、例えばお祭りに行って市長さんのツイッターを見ているとか、フェイスブックを見ているとか、結構意外な方から、SNSとか余りご縁がないような年代の方からもSNSを見ているよとか、フェイスブックをいつも見ていると。市長さんってこういう仕事をしているんだ、初めてわかりました。市長さん、忙しいんですねとか、こういう会合にも顔を出しているんですね。そういうふうに言われるようになりまして、国会議員のときよりも物すごい反響をいただいております。

できる限りSNS、多分私は、これは政治家としてのSNSでございますので、いろいろな発信もしますけれども、極力、恐らく私が思った疑問、つまり市長って何をやっているのというような疑問を多分皆さん持たれていると思うので、私は私でそういった、市長ってというのはこういうことをやっているんですよと。できる限り身近に感じていただけるようなSNSを発信していきたいと思っておりますし、あるいは逆に、例えば、別にこれは何かやるわけではないんですけども、例えば町によっては市長室とあって、別に多分やっている町もあるんです。

それは別にどうするかというのはまだ全然考えてはいないんですけども、行政は行政でやると

というのが一つの方法かもしれないですし、これはあくまでも私の政治家としてのSNSでございますので、これからも発信を続けていきたいと思っておりますし、あるいは、災害時にSNSというのはある意味で真価を発揮するのではないかなと思っております。

やはり3.11のころであつたりとか、局所的な豪雨があつたりとか、そういうときにいろいろなニュースが流れる中で、では、行政はどういう、本当の情報は何なんだと。3.11のときなんかはツイッターは物すごい活躍をしました。ラジオやテレビでは拾えないようなこともツイッターで発信して、どこどこが今孤立しているんですとか、あるいはこういう物資が足りないですとか、そういういろいろなニュースが流れる中で、公式な行政のアカウントから正しい情報を発信する。

これは災害が起きてからでは遅いので、日ごろから訓練をしなければならぬと思っておりますし、これから夏になっていろいろな災害が起きてくると思うんです。集中豪雨であつたりとか、あるいは台風であつたりとか、そういうときに、やはりこのSNS、日ごろの取り組みの、ある意味では成果が出てくるのかなと思っておりますので、そういうことも踏まえてプロモーションについてはしっかり考えていきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） まさにSNSの発信力というのはすごいなと私も思っておりますので、ぜひ、やはり先ほどから言っておりますように、市長というのは那須塩原市の顔でありますので、ぜひどんどん使っていただいて、那須塩原市のいいところのPRをしていただきたいと思います。

もう一点、この情報の関係で、情報収集ということで、きのうも東京のほうへ行っているということですが、この辺の手応えというのはど

んな感じを持っているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） もう一度おっしゃっていただけますか。ごめんなさい。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 情報収集というようなお話はわかったんですけども、発信のほうではなくて今度は情報収集です。東京にもしばしば省庁関係も伺っているというお話だったので、ちょっとその辺の手応えがあればお伺いしたいなと思ったんですけども。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 情報収集のほうであります。例えば、何かこうダイレクトに今度こういうことをやるんだと、そういった、いわばインサイダー的な情報というのはないんです。そうではなくて、割と、今度はこの流れになりそうだから、今、国会ではこういう議論をしているんだとか、あるいは政府のほうでは、今度はこの流れになるのではないかというのは意識的にしていきたいなと思っています。やはり一つ、今後大きなテーマになっていくのは、私はやはり温暖化だと思うんです。温暖化対策、気候変動の対策、恐らくこれが大きな流れになってくるんです。

日本は割と環境問題というと、どちらかというと、これ慈善事業的なイメージが強いんですが、海外ではやはりESG投資のように、もうビジネスを絡めていると。この会社は環境に、例えば、たしかアップルか何かの会社が自社製品をつくるときに、再生エネルギーの電力を使っている会社としか取引をしないよと言って、ちょっと名前は忘れてしまいましたけれども、日本の国内の企業

が選ばれたという事例もありまして、世界はかなり環境を、もちろん慈善的な面もありますが、かなりビジネスを絡めているというのが強いんです。

それはなぜかという、やはり環境に配慮しているということは、これが持続可能性、企業の持続性が長くなるのではないかという投資家の思考が働いている。だからESG投資をやるんだ。あるいは女性役員が多いな、男性ばかりではなくて女性役員が多いから、恐らく、これは本当に主観的なんですけども、恐らく男性ばかりの役員、あるいは一定の年齢層の役員の会社よりも、いろいろな年代、いろいろな人種、いろいろな年代、女性の比率が多い会社のほうがきっと多様なんだろうといった、主観的な判断ではあるんですけども、今、マーケットではそのような考え方が広まりつつあるんです。

とすると、やはりある程度我々もアンテナを高くして、自然環境、気候変動に対して我が町はこのように考えているんですよ。しっかりと環境問題を考えていますと。それがサステナブル、持続可能性なんだよ。そこにつながるのも持っておりますので、そういう、ある意味で世界のトレンド、日本のトレンド、そしてこれから地方にやってくるトレンド、そういった情報は常にアンテナを高くしていきたいなと思っています。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） もう私が考えていた以上の答えが出てきまして、環境対策という話も出てきまして、非常に力強いなと思いましたので、ぜひ、これからもそちらにつきましてはアンテナを高くして、東京へでも官庁でも行っていただきたいなど、このように思います。

ちょっと情報発信ということで、私のほうから一つだけご提案を申し上げたいなと思っています。

市内にあるNPO法人で考えているものであり

ますが、「田んぼの目のクラス会メール」というのがあるんです。こちらで今、ふるさと大使をつくるというものを構築しております。ふるさと大使、当然皆様も御存じのように、那須塩原市に関係する有名人などが観光の振興の広報活動、また市のよいところのPRをするというものだと思います。そんな中で、やはりふるさと大使というのが、これは人が多ければ多いほど情報発信は広範囲になってきて、多ければ多いほどいいだろうと思っておりますが、やはりなかなかこのふるさと大使、人をふやすのは非常に難しい状況なのかなと思っております。

このクラス会メール、こういうものを利用しようというものでありまして、このメールのシステムは、今、那須塩原市の市内の何校かの学校でも入っております。たまたま私が黒磯高校のPTA会長をやったときに、このメールをクラス会、そしてPTA用の連絡網というような形で使っていたものでありまして、ちょうど震災があったときにこのメールを入れて、非常に有効活用になったと、こういうメールがあるんですが、このメールを市内の学校を卒業したときに、同窓会とか講演会という形になるかと思うんですが、だからそういう人を本当に、那須塩原市の学校を卒業した人がこのメールというのを活用して、那須塩原市をPRしたらどうかというようなアイデアであります。

那須塩原市を卒業してほかの市町村、また国内、国外にももう数十万人の方がそういう、那須塩原市を出て行って住んでいるということであるそうですので、ぜひ、こういうメールを使って、まさに那須塩原市のもと住んでいた人が那須塩原市をPRするというのメールシステムなんですけど、ぜひ、こんなものを私のほうからご提案申し上げたいと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（吉成伸一議員） 眞壁議員に申し上げますが、やはり少し今回のその(7)の質問からすると、ご提案というか、こういったものがありますよという紹介であれば何ら問題ないと思いますが、できれば質問の趣旨を少し変えていただければと思います。

18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 詳しい話になると非常に長くなりますので、私はこれ、提案といたしますので、もし興味があれば私のほうに言っていただければ、引き継がせていただきますので、よろしくをお願いします。

新市長には令和の時代にふさわしい新しいまちづくり、市民の皆様が、何回も出ていますが、わくわくどきどきするような市政運営を期待しまして、この項を終わりにいたします。

○議長（吉成伸一議員） ここで10分間休憩いたします。

休憩 午後 3時14分

再開 午後 3時23分

○議長（吉成伸一議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） それでは、2、新庁舎建設について。

新庁舎建設については、平成26年に庁舎建設市民検討懇談会や庁内検討組織を設置し、新庁舎に関する調査や研究を本格的に始めました。市民アンケート結果やパブリックコメント、市議会からの提言事項等を踏まえ、平成27年3月に新庁舎建設基本構想を策定し、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を開始しました。

そのような中で、市長の交代により平成28年3月25日の第10回庁舎建設市民検討懇談会において、新庁舎建設時期については東京オリンピック・パラリンピック等の影響による資材の高騰や合併特例債の発行可能期間の延長などを踏まえ、東京オリンピック、パラリンピック以降に延期することが適当であると判断し、検討を中断いたしました。その後、平成29年に入って、県北の中心都市にふさわしい拠点づくりや合併特例債の発行可能期間を見据えると、東京オリンピック・パラリンピック以降、速やかに建設工事に着手する必要があることから、新庁舎建設基本計画の策定に向けた検討を再開し、平成31年3月に新庁舎建設基本計画を作成し、令和5年新庁舎開庁に向けて進んでいます。市長の新庁舎建設に対するお考えについてお伺いいたします。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 新庁舎建設、私もたびたび答弁をしておりますが、まちづくり、那須塩原駅前周辺のこの整備に当たりましては、新庁舎というのは重要な構成要素だと思っております。そうした認識を持った上で那須塩原駅周辺のまちづくりビジョンを検討して、ビジョンの整合性の確認や調整を図りながら進めていきたいと考えております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） それでは、ちょっと何点かだけお伺いします。

まず、スケジュールの関係であります。先ほど佐藤代表のほうからあったとおり、まだちょっとわからないというのが現状かなと思うんですが、市長の任期というのが4年ですね。その後はちょっと私も何とも言えないんですが、そういう時期をやはり絡めながら、当然この将来ビジョンもこ

とし始めるということでもありますので、ざっくり、本当にどのぐらいの時期でやりたいのかということと、もう一つちょっと関連ありますので、合併特例債の期限が2024年だと思いますが、この辺との絡みも当然出てくるんだろうと思っております。ちょっとその辺の考え方があればお伺いしたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（渡辺美知太郎） 当然、過去のこの議論の積み重ね、これは尊重しなければならないと思っております。また、庁舎ありきというよりは、あくまでも、まずこのまちづくりのビジョンでございます。ちょっとひとり歩きしてしまうので、余り、ひとり歩きしないように気をつけなければいけないのですが、例えば極端な話、まちづくりのビジョンをやった上で、現状の計画でいいのではないかという議論になれば、それはそれでいいと思っております。ただその一方で、いや、もうちょっとこうしてくれ、ああしてくれみたいな議論になった際に、これは現実的に今までの議論を踏まえた上で判断しなければならないと思っておりますので、やはり過去の議論、これを尊重した上で遂行していきたいと思っております。

○議長（吉成伸一議員） 18番、眞壁俊郎議員。

○18番（眞壁俊郎議員） 新庁舎に関しては、私も鳥取市の新庁舎の関係で見てきたことがあるんですけども、まさに市長が変わって変更で、議会のメンバーが変わって変更ということで、3回ぐらい変更していて、どうにかでき上がったという市庁舎がありました。そういう面で言いますと、やはり市庁舎というのはなかなか、さっと建つときはいいんですけども、こういろいろ難しくなってくると非常に難しい。なかなか長期的になってしまうというのも現状であります。やはり那

須塩原市の発展のためには、やはり私は駅前に早期に建てて、那須塩原市を発展させていただきたいというのがお話なんですけれども、当然、君島市長になる前の考え方から言うと、もう昨年度中には多分新庁舎はできていたんだろうと思っています。

そうすると、間違いなくもう5年、10年というのがおこなわれているという状況だと思います。当時、やはり新庁舎の計画があったときに、本当に民間の方から引き合いがあったという話も随分聞いておりましたので、やはりそういうビッグプロジェクトがあれば、当然民間の人も来るというような形になるんだろうと思います。やはり、かなりそういう面では非常に重要なことになるんだろうと思いますので、お願いしたいなと思います。

那須塩原市は平成17年1月に、「人と自然がふれあう やすらぎのまち 那須塩原」を将来像として誕生いたしました。それから、本当に早いもので14年の歳月が流れました。この間、那須塩原市は豊かな自然、また人に恵まれ、農業、商工業、観光など、多彩な産業のバランスがよくて、東北新幹線、東北自動車道、国道4号、東北本線などの交通網が形成されており、着実に発展をしてきました。しかし、少子高齢化、人口減少の進行により、誕生当時の人口は11万5,032人の人口でしたが、平成22年に11万7,812人に増加をいたしました。その後減少に転じ、現在、令和元年は11万6,000人前後となっており、当初推計した人口より2,000人強の人口が減少している、こういう状況であります。

また、新幹線の停車駅である那須塩原駅周辺の発展を私たちは期待をしていましたが、まさに栃木県の中核都市の拠点には本当にほど遠い状況ではないでしょうか。今後、那須塩原市は県北の中核都市、北都として発展できるか、私はまさに正

念場の時を迎えているとっております。市長は36歳という若さであり、若過ぎるという不安の声もありますが、それ以上に、その若さとスピード感に私は期待をしたいと思います。ぜひ、新しい目で、新しい感覚で、令和時代にふさわしい新しいまちづくりに邁進していただきたいと、このように思います。

以上で志絆の会を代表しての質問、終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（吉成伸一議員） 以上で志絆の会の代表質問は終了いたしました。

会派代表質問通告者の質問は全て終了いたしました。

会派代表質問を終わりにしたいと思います、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（吉成伸一議員） 異議なしと認めます。

会派代表質問を終わります。



◎散会の宣告

○議長（吉成伸一議員） 以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

お疲れさまでした。

散会 午後 3時33分